

問題児は人狼なりや？

朧気だんぼーる@受験

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

この作品は筆者の主観で十六夜と他作品のキャラとで知恵比べ及び心理戦を実践してみた、という多重クロスです。

人狼をしらなくても読めるようにはしたつもりですが、分からないことや不可解なことがあれば気軽に聞いてください。

→ 申し訳程度のあらすじ

ある日、逆廻十六夜の元に差出人不明の契約書類が届く。

その内容は「人狼ゲームで勝て」といったって単純なものだったが……？

目次

V S 灰色狼

1 村目プロローグ&クロスキャラ顔合

わせ

1 日目

2 日目

3 日目

4 日目

5 日目

6 日目

7 日目①

7 日目②

7 日目③

1

12

23

32

40

49

61

69

77

86

7 日目④

7 日目 終極

V S ぼっち&超高校級の希望

第2村目 プロローグ&クロスキャラ

顔合わせ

1 日目

2 日目

3 日目①

3 日目②

4 日目

122

138

152

163

176

188

95

103

V S 灰色狼

1 村目プロローグ&クロスキャラ顔合わせ

—— “ノーネーム” 本拠・貯水池前の憩いの小屋。

水樹の枝葉の間を柔らかい風が吹き抜けるこの場所で、逆廻十六夜は分厚い本を片手にぼんやりと壁にもたれ掛かる。

「…平和だ」

疲れ目を癒すために何回かまばたきをして再び本に目を戻そうとすると、十六夜の手元に1枚の羊皮紙が舞い降りた。

十六夜（ん…契約書類？）

十六夜は本を閉じて羊皮紙をつまみ上げる。

十六夜（こんな緩慢な平和を噛み締めながら読者してる時にギフトゲームとはいい趣味してるじゃねえか。どれどれ…）

『ギフトゲーム名 “Are you a Werewolf?”』

プレイヤー一覧 逆廻十六夜

クリア条件 人狼ゲームで勝利する。

敗北条件 人狼ゲームで敗北、またはルールに反する行為を犯した場合。

宣誓、上記を尊重し、誇りと御旗とホストマスターの名

の下、ギフトゲームを開催します。

”
”
”
”

十六夜（差出人不明の契約書類？それはそうと人狼ゲームか…確か1930年頃ヨーロッパで原型が生まれたロールプレイゲームだったか…？やったことはない…が…）
契約書類を睨んで思考を巡らせていると、突如猛烈な睡魔に襲われ、十六夜の意識は途絶えた。

※※※

首筋に刺すような痛みが走り、十六夜は目覚めた。

同じ姿勢で椅子に座ったまま寝ていたらしい。

自分の胸を見ると、「逆廻十六夜」と書かれた名札がつけられている。

十六夜（……ここは？）

そのまま眠りこけたらいつの間にか見知らぬ部屋にいる。

十六夜（ギフトゲームなんだよな、これ）

意識がはつきりとしてきて、十六夜は辺りを見渡す。

周囲を見ると円を描くように11脚の椅子が配置されている。

十六夜を含め、いずれの椅子にも年齢のばらけた男女が座っていた。

十六夜（…各々の服装にも年代差を感じる。この場にいる人間はそれぞれ異なる時間軸から集められたっぼいな）

今の状況を飲み込めていないのか、誰もが一樣に怪訝そうな顔をしてお互いの顔を見合わせている。

そこにボイスチェンジャーで声を加工したアナウンスが流れた。

『……はい。これで全員起きましたね。おはようございます皆さん』

その場にいる全員が顔を上げた。

声は天井に取り付けられたスピーカーから聞こえている。

『皆さんにはこれからゲームをしてもらいます。拒否権はありません』

ベジータ「ふざけるな」

タンクトップ姿で目付きの悪い「ベジータ」という名札を付けた男性が怒気を込めた声で声をあげる。

ベジータ「オレが大人しくしているうちにさっさと解放するんだな。さもなくばこの部屋ごと吹っ飛ばさなければならなくなる」

十六夜（えらい血気盛んなオッサンだな。かなりの実力者みたいだが……）

十六夜は表情を変えぬように隣に座っているベジータを一瞥する。

すると苦笑混じりにアナウンスが応答した。

『ベジータさん……。確かにあなたの力ならばその部屋を吹っ飛ばして脱出するくらいは訳ないでしょう』

ベジータ「分かっているじゃないか。ならさっさと……」

『しかしその場で起きる出来事は全て中継されています。もし不審な真似をした場合には予めこちらの方で預からせて頂いたあなたの奥様の身の安全は保証致しません』

ベジータ「……何だと？」

『これはベジータさんだけではなく皆様に伝えておきます。もしこのゲームで敗れた、又は違反行為をした場合には皆様の人質には死んでいただきます』

「「!？」」

その場にいる全員が凍りついた。

ベジータ「くそつたれ……」

十六夜（成る程、ハツタリだとしても確証が持てない以上正々堂々ルールに従ってやるしかないってわけか）

シャル「ぼ、ぼくたちに何をさせる気なの？」

『はい。皆様には人狼ゲームというゲームをしてもらいます』

タダクニ「え、人狼ってあの？」

波平「そんな今時のゲームなんて知らんぞ」

のび太「嫌だよ僕勝ったことないんだよぉ」

ベジータ「くだらん……」

バカボン父「なんだか面白そうなのだ！」

アンパンマン「許さないぞ！バイキンマン！」

シャル「僕やりたくないよ……そんな命を賭けてなんて……」

やる夫「VIPでやったお！」

ヴィクトリカ（人狼ゲームだと？聞いたことないが……この場にいる何名かはセオリーを知っているようだな）

孫「じ、人狼ゲームってなんだよ!？」

十六夜（おいおいルールも知らねえ奴いるみたいだが…）

『知らない方も多いでしょう。なのでルールを説明いたします』

『ざっくり言えばプレイヤーは人狼、村人、妖弧の三つの陣営に分かれ、人狼陣営は正体を見破られずに村人を皆殺しにすれば勝ち。

村人陣営は人狼を炙り出し、やはり皆殺しにすれば勝ち。

そして妖弧陣営は人狼が全滅、又は人狼の数≦村人の数になった時点まで生き残っていれば勝ちです』

十六夜（……?）

やる夫「皆殺し?俺達に本物の殺し合いでもさせる気かお?」

『まさか。最後まで聞いてください。まずこの部屋には十人のプレイヤーがいますね?初め人狼陣営二人、村人陣営七人、妖弧陣営一人に分かれてもらいます。』

『ゲームはまず朝フェイズに話し合いをして、誰が人狼かを議論してもらいます』

『次に夕方フェイズ。全員で人狼だと疑わしき人物に投票し、最も投票数が多かった人物を「吊り」という形で処刑します。』

処刑された人物は別室に移動してもらいます』

『そして夜フェイズでは皆さんは個室に移動してもらいますが、人狼陣営の方のみは部

屋を出て話し合いをし、誰か一人を「嘯む」ことができます。

嘯まれた人物も別室での待機となります」

『朝フェイズが30分、夕方フェイズが5分、夜フェイズが25分のサイクルで毎日誰かを処刑し、誰かを嘯むことで人数を減らしていき、決着がつくまで繰り返してもらいます』

波平「ふーむ……ルールは大体分かったが、そのゲームは人狼や妖弧が有利すぎやしないかね?」

『よく気付きました。その通りです。なので村人陣営には他の陣営に対抗すべく様々な能力を持った役割というものが存在します。』

詳しくは各自部屋に戻った後、役職紹介の紙がありますのでご参照ください』

『ルール説明は以上です。では各自個室に移動してください。30分後にこの部屋に集合し、朝フェイズとなります。』

十六夜「待てよ主催者」

『……はい?何でしょう十六夜さん』

十六夜「お前さつき人狼陣営の勝利条件は村人との数を合わせるのではなく、皆殺しと言っていたが間違いはないんだな?」

『……そうですよ?特別ルールでございます』

バカボン父「なるほど！分からないのだ！」

孫「お、俺もよく分からねえよ…」

のび太「助けてドラえもん…」

参加者

逆廻 十六夜

(問題児たちが異世界から来るようですよ?)

ベジータ

(ドラゴンボール)

やる夫

(2ちゃんねる)

孫

(でんじやらすじくさん)

アンパンマン

(アンパンマン)

のび太

(ドラえもん)

ヴィクトリカ・ド・ブロワ

(GOSICK)

バカボンのパパ

(天才バカボン)

シャルロット・デュノア

(インフィニットストラトス)

磯野 波平

(サザエさん)

タダクニ

(男子高校生の日常)

計11名

登場役職

人狼：

人狼陣営。占われると人狼判定。

人狼が誰であるかを知ることができ、毎晩誰か一人を襲うことができる。

狂人：

人狼陣営。占われると村人判定。

能力はないが、人狼が勝つように行動しなければならぬ。

村人：

村人陣営。占われると村人判定。

能力は無いが、村人が勝つように行動しなければならぬ。

占い師：

村人陣営。占われると村人判定。

毎晩誰か一人を占い、その者が人狼か否かを知ることができる。

人狼の場合は人狼判定。それ以外の場合は村人判定。

また、妖弧を占うと呪殺することができる。

霊媒師：

村人陣営。占われると村人判定。

投票で吊られた者が人狼か否かを知ることができる。

騎士：

村人陣営。占われると村人判定。

毎晩自分以外の誰かを、人狼の襲撃から守ることができる。

妖弧：

妖弧陣營。占われると死亡。
人狼に襲撃されても死なない。

1 日 目

生存者

十六夜

ベジータ

やる夫

孫

アンパンマン

ヴィクトリカ

バカボンのパパ

シャルロット・デュノア

磯野 波平

タダクニ

〈 0日目・夜 〉

『人狼の方は部屋を出て集合してください。他の役職の方は部屋から出てはいけません』

十六夜（んじや、行くか）

説明が終わった後、一同は一度各々の個室に戻った。

その時十六夜の部屋に置いてあったカードは『人狼』だったのだ。

とりあえず大広間に向かうかと十六夜が通路を歩いていると、中性的な顔立ちの金髪少女に出くわした。

十六夜「お」

シャル「あ。えっと…君が僕のパートナー…だよね？」

十六夜「こりや役得だ。ブロンドの僕っ娘美少女が俺の相手とは」

シャル「あ、あはは…。よ、よろしくね」

十六夜「とりあえず大広間に行かぬえか？ここで立ち話もなんだろ」

シャル「うん。そうだね」

※※※

く大広間く

十六夜「…じゃあまずはお互い自己紹介しようぜ僕っ娘」

シャル「僕っ娘って何さ……。まあいいか。僕はシャルロット・デュノア。君は？」

十六夜「俺は逆廻十六夜だ。よろしくなシャル」

シャル「えっシ、シャル？」ドキ

十六夜「ん？名前略されたら不満か？」

シャル「い、いいよ！全然いいよ！大丈夫！」ブンブン

十六夜「そうか。本当は今のやり取りで何故かデレたお前とこのまましばらく話をしていたんだが生憎夜時間は限られている。

そういうわけで早速一つシャルに頼みがあるんだが、いいか？」

シャル「え？な、何かな」

十六夜「まあ大したことじゃない。シャルには俺の言う通りに動いて欲しいってことだ」

シャル「十六夜君の言う通りに？」

十六夜「そうだ。手前味噌になるが俺は知能派を自負してるんでね。ここは一つ信用してもらえると助かるんだが…」

シャル「…うん、分かった。むしろこつちが助かるよ。一応僕も人狼のルールは知ってるんだけどこういうの苦手で…」

十六夜「OK。じゃあまずはだな…」

※※※

～1日目・朝～

『朝時間です。では皆さん、大広間で話し合いをしてください』

バカボン父「タリラリラーン。皆さんコニヤニヤチワ。バカボンのパパなのだ！」

孫「俺のおじいちゃん並のバカがいる…」

波平「おはよう諸君」

やる夫「おっおっ（ゝωゝ）」

シャル「おはようございまーす」

ベジータ「チツくだらねえ茶番に巻き込まれたもんだぜ」

十六夜「全くだ。さっさと帰してほしいね」

のび太「ふええ…ドラえもん…」

アンパン「元氣等倍！アンパンマン！」

タダクニ（この女の子人形みたいだな…何歳だろ？）

ヴィクトリカ「君、さつきからジロジロと何か用かね？」
タダクニ「い、いや別に」

適当に挨拶？を交わした後、一同はとりあえずそれぞれ自分が先程座っていた席に座る。

誰が何を言うでもなくしばらく沈黙の時間が続いた。

3分程経った辺りで波平が口を開く。

波平「…このまま黙っていても埒が開かん。とりあえず自己紹介でもせんか？お互いのことも知らんわけだし。話はそれからだ」

のび太「そ、そうだね！」

バカボン父「反対の逆なのだ！ワシはバカ田大学首席卒業でお馴染みバカボンのパパなのだ！」

波平「ワシは磯野波平じゃ。しがないサラリーマンじゃよ」

やる夫「俺は2ちゃんねるで考案されたアスキーアートによるキャラクターだおwww
wwwやる夫って呼べおwwwwww」

ベジータ「…ベジータだ」

アンパン「僕アンパンマン！愛と勇気だけが友達さ！」

のび太「ぼ、僕は野比のび太。小学生です…」

孫「お、俺も小学生だよ。本名は洋介だけど周りからは孫って呼ばれてるんだ…」
のび太「そうなんだ！よろしくね孫くん！」

孫「お、おう！」

シャル「私はシャルロット。シャルロット・デュノアです」

タダクニ「見たことない制服だなあ。どこ校？」

シャルロット「ＩＳ学園ってどこなんだけど…知らない？」

タダクニ「ＩＳ学園？知らないなあ…あ、俺は真田北高のタダクニです。よろしくで、君は？」

ヴィクトリカ「…ヴィクトリカ・ド・ブロワだ。…で、残るは目付きの悪い君だが」
十六夜「高圧的な振りありがとよ。ええ確かに見たまんま粗野で野蛮で逆廻十六夜です。よろしく」

十六夜（ＩＳ学園も真田北高も全く聞き覚えがねえ。もしやこいつら皆パラレルワールドから集められた人間なのか？）

ヴィクトリカ（…妙だ。ほとんどが久条のような東洋系の顔をしているが当たり前のように意思疎通ができる。そしてあのアンパンや平面男は何だ？）

孫「で、自己紹介終わったけどどうするの？」

十六夜「とりあえずさっきの夜時間で自分の役職は分かったんだろ？占い師が出てこないことには話が進まねえんじやねえか？」

やる夫「何でだお？占い師がここで出てきたら即刻嘯まれちゃうお！」

十六夜「その為の騎士だろ。それともこのまま占い師には潜伏してもらって投票はラウンドで決めるか？」

波平「それは流石に危なかるう」

十六夜「だろ？」

やる夫「うーん論破されたお」

十六夜「そういうわけだから占い師がいるなら名乗り出てくれ」

ベジータ「…占い師は俺だ。昨日はやる夫を見た。残念ながら村人だったぜ」

シャル（占い師が出た。じゃあ僕も打ち合わせ通りに占い師を…）

タダクニ「おい待てよ占い師は俺だぜ？」

シャル（!?!）

ベジータ「なんだとキサマ!!偽物は引つ込んでやがれ!!」

タダクニ「こ、こつちのセリフだ！昨日はシャルロットを見た！村人だった！」

シャル（え?）

アンパン「さつそく騙りが出たよ！」

バカボン父「偽物なのだ！」

孫「分かんないけどとりあえず両方吊れば狼一匹減らせるんじゃないやねえの？」

波平「いや、それはならんぞ洋介君。もし今名乗りをあげた者が例えば本物、狂人だとしたら人狼は未だに潜伏していることになるんじゃない」

孫「な、なるほど……じゃあどうするの？誰を吊るんだよ」

十六夜「今カミングアウトした2人の占い師が出した判定がどちらも白だからな。」

ここはカミングアウトをしていない、かつ村人判定を受けていないグレーな人間を吊るのが無難じゃねえか？」

シャル「グレランってやつかな？」

※グレラン＝占い師から村人判定を受けておらず、村人か人狼か分からない者を無作為に吊ること。

ヴィクトリカ（やけに誘導したがなるな十六夜とかいう青年は……私の杞憂か？）

やる夫「結局適当に投票するってことかお？それじゃ最初と変わらないお」

十六夜「いや？この時点で吊るべき人間はある程度絞れるだろ。例えば……さつきからずつと黙りこくってる奴とかはボロを出さないように喋ってないとかありそうじゃねえか？」

十六夜がのび太とヴィクトリカを一瞥する。

ヴィクトリカ「……」

のび太「ち、違うよ！僕は人狼じゃない!!」ガタツ

やる夫「おっ？おっ？何か急に取り乱し始めたおwwwwww」

孫「の、のび太お前……」

のび太「違うってば!!急に僕を吊ろうとした十六夜さんの方が怪しいじゃないか!!」

十六夜「おいおい。俺がいつお前が怪しいなんて言った？」

のび太「そっ、それは……!」

波平「怪しいのお」

バカボン父「それでいいのだ!」

のび太「皆あ……!」

『朝時間終了です。これから夕方の投票フェイズに入ります』

※※※

く1日目・夕方く

投票結果

アンパンマン↓のび太

十六夜↓のび太

波平↓のび太

のび太↓十六夜

シャルロット↓のび太

孫↓のび太

ベジータ↓シャルロット

タダクニ↓のび太

ヴィクトリカ↓のび太

やる夫↓のび太

バカボン父↓のび太

のび太：9票

十六夜：1票

シャルロット：1票

のび太「……なんで僕が……」

『投票により今夜の処刑はのび太さんに決定しました。のび太にはこのゲームが終わる

まで別室に待機してもらいます』

突如のび太の足元に穴が開き、のび太は虚空へと吸い込まれていった。
のび太「うわっ！うわあああああ!!!」

『それでは2日目の夜になります。各自自分の部屋へお戻りください』

2 日目

C O 一 覧

占い師

ベジータ：↓やる夫○

タダクニ：↓シャルロット○

霊能師

狩人

投票一覧

アンパンマン：↓のび太

十六夜：↓のび太

波平：↓のび太

のび太：↓十六夜

シャルロット：↓のび太

孫：↓のび太

ベジータ：↓シャルロット

タダクニ：↓のび太

ヴィクトリカ：↓のび太

やる夫：↓のび太

バカボン父：↓のび太

生存者

十六夜

ベジータ

やる夫

孫

アンパンマン

ヴィクトリカ

バカボンのパパ

シャルロット・デュノア

磯野 波平

タダクニ

「1日目・夜」

シャル「い、十六夜君……ごめんね……占い師を騙ろうとしたらタダクニ君が出てきて……」

十六夜「いや、あそこは潜伏しとしても別に問題ないだろ。むしろラッキーだったな。タダクニの奴がお前を村人判定したつてことは当然のことながらあいつは占い師騙りだ。仮とはいえこれでシャルへの疑いは薄れた」

シャル「……タダクニ君は狂人か妖狐のどちらかなんだよね」

十六夜「そうだ」

シャル「じゃあさ、今日噛むのはタダクニ君にしない？」

十六夜「……理由は？」

シャル「僕達がこのゲームに勝つには村人を全滅させる前にまずは妖狐を何とかしないといけないんだよね」

十六夜「そうだな」

シャル「だから今日はとりあえずタダクニ君を噛んで彼が妖狐か否かを調べるんだよ。」

※妖狐は人狼に噛まれても死なない。

十六夜「ヤハハ、なるほどな。でもリスク高いぜそれ。

今夜タダクニを襲撃してよしんばあいつが明日も生きていたとしてもそれでタダクニを妖狐だと断定はできない。

騎士に護衛されて失敗したって可能性もあるんだからな。

それに今夜騎士は十中八九ベジータかタダクニどちらかの護衛につくだろうし」

シャル「うー…ダメかあ」

十六夜「今夜は無難に村人っぽい奴を狙うべきだ。運がよけりや潜伏してる他の役職の奴を片付けられる」

シャル「…うん。そうだね。十六夜君の言う通りだ」

十六夜「決まりだな。とりあえず…今日噛むのはコイツでいいか」ポチツ
十六夜が襲撃ボタンを押した。

※※※

く2日目・朝く

『朝時間になりました。では皆さん、大広間で話し合いをしてください』

バカボン父「コニヤニヤチワ。ワシは今日も元気なのだ！」

アンパン「一体誰が嘯まれたんだろう…」

ヴィクトリカ「…孫の姿が見当たらないようだが」

波平「洋介君が嘯まれたか…」

やる夫「ほ…本当に死んだお……!!?」

シャル「最初に別室に移動するだけっていったじやない。大丈夫だよ」

タダクニ「昨日はヴィクトリカさんを占った。村人だったよ」

ベジータ「俺はその人面アンパンを見たが当然村人だったぜ」

十六夜「カミングアウトする。俺は霊能師だ。昨日吊られたのび太は白だった。可哀想なことしたな」

ベジータ「よく言うぜ人狼の癖に」

十六夜「は?」

ベジータ「てめえらよく聞け。俺には既に人狼の正体が分かっている」

一同「!?!」

ベジータ「俺はお前らの気を察知していつでもお前らの居場所を確認できる。さつき
の夜時間で部屋から出た2つの気は十六夜とシャルロットだ。間違いない」

一瞬にして場の空気が凍り付いた。

シャル「…そ、そういえばベジータさん昨日は1人だけ僕に投票していたよね……?」

ベジータ「当たり前だ。貴様が人狼なのだから」

波平「どういうことだね？」

やる夫「おいおいお前らどうなんだお？お？」

十六夜（チツ、しようがない。信用勝負に出るか）

十六夜「：ちよつと待てよM字ハゲ」

ベジータ「何だクソガキ」

十六夜「何だじゃねえよ。俺達が人狼だと分かっているなら何故占い対象を俺達にしなかつたんだ？」

タダクニ「あ、確かに」

ベジータ「何を言つてやがる。俺は既に貴様らの正体が分かっているんだ。分かっているのに貴様らを占うメリットは無かろう。妖狐をぶつ殺すことに専念した方が賢明だろうが」

十六夜「は？寝言は寝て言えよM字ハゲ。そもそも気を察知つて何だ？いい年して周りが解せねえ脳内設定持ち出すとか中二病かよお前」

ベジータ「無能な貴様らに分かる必要もない。いいから俺の言うことを聞くんだな。このガキとそこの女を吊れば俺達の勝ちだ」

十六夜「おいおい話はぐらかしてんじゃねえぞ。百歩譲つててめえの言う他人の居場

所が分かる能力があるとして、普通はそいつらを占って黒判定出して手堅く村の信用を勝ち取るのが道理だろうが」

ベジータ「それはてめえの主観だ。このガキに騙されるなよ貴様ら」

十六夜「壮大なブーメラン投げてんじやねえぞM字。てめえの主観で勝手に場を押し進めて周りの信用を得られると思ってるのか？」

ベジータ「な、何だと!」

十六夜「分からねえか? 今この時点でてめえの論理的に破綻してる言い分を鵜呑みにしてる奴なんていないと思うぜ。少なくとも俺はてめえを信じられない」

ベジータ「何? 貴様ら俺を信じていないのかツ!!」アタフタ

十六夜(馬鹿が:ここで熱くなったら余計怪しまれるだろ)

波平「:君の話は少々空理に走っているよベジータ君:」

アンパン「むしろベジータさんが人狼に見えるなあ」

ヴィクトリカ「ああ。理論的ではないな。場を掻き乱そうと下手な戯れ言を吐いてるようにしか思えん」

ベジータ「ツ!?!バ、馬鹿共が……!」

十六夜「ついでに言うともし仮に俺が人狼なら俺が霊能師を名乗り上げた時点で、對抗してくる奴がいなくても妙な話だよな?」

まあ、のび太か孫が霊能だった可能性もあるにはあるが」

ベジータ「チツ、くそつたれ……!」

バカボン父「今日の吊り先は決まったのだ!」

ヴェクトリカ「……」

『朝時間終了です。これから夕方の投票フェイズに入ります』

く1日目・夕方く

投票結果

アンパンマン↓ベジータ

十六夜↓ベジータ

波平↓ベジータ

シャルロット↓ベジータ

ベジータ↓十六夜

タダクニ↓ベジータ

ヴェクトリカ↓ベジータ

やる夫↓ベジータ

バカボン父↓ベジータ

ベジータ：8票

十六夜：1票

ベジータ「もうダメだ…おしまいだあ…！」

『投票により今夜の処刑はベジータさんに決定しました』

ガコンとベジータの床下に穴が開き、ベジータはうなだれたまま落ちていった。

『それでは夜時間になります。各自自分の部屋へお戻りください』

3日目

CO一覽

占い師：

ベジータ：↓やる夫○↓アンパンマン○

タダクニ：↓シャルロット○↓ヴェイクトリカ○

靈能師：

十六夜↓のび太○

狩人：

投票一覽

アンパンマン：↓のび太↓ベジータ

十六夜：↓のび太↓ベジータ

波平：↓のび太↓ベジータ

のび太：↓十六夜

シャルロット：↓のび太↓ベジータ

孫：↓のび太

ベジータ：↓シャルロット↓十六夜

タダクニ：↓のび太↓ベジータ

ヴィクトリカ：↓のび太↓ベジータ

やる夫：↓のび太 ↓ベジータ

バカボン父：↓のび太↓ベジータ

生存者

十六夜

やる夫

孫

アンパンマン

ヴィクトリカ

バカボンのパパ

シャルロット・デュノア

磯野 波平

タダクニ

「2日目・夜」

シャル「ほんとにハラハラしたよ…凄いなだね十六夜って」

十六夜「そう褒めるな。まあ、対抗霊能師が出なかつたのはラッキーだった。お陰で随分と動きやすくなったぞ」

シャル「明日の霊能判定はどうするの？」

十六夜「明日はベジータを人狼判定にしておいても問題無いだろ。そうなると村視点でこの村に生き残つた人狼の数は1人になる」

シャル「えーと…LW（ラストウルフ）ってやつだね」

※LW＝ラスト1匹になった人狼のこと。

十六夜「そうだ。妖狐が生きている状態でLWを吊ればその時点で妖狐の勝ちになる。村陣営にとつてはいいプレッシャーになるな。そういうわけで万が一俺らの正体がバレても容易には吊れなくなるわけだ」

シャル「なるほど…。あはは、十六夜に任せれば本当に勝てる気がしてきたよ」

十六夜「まだ分からねえよ。妖狐を片付けなきやいけねえんだから。生きてるか知らないが」

シャル「そうだね。油断は禁物でした。で、今夜は誰を噛むつもりなの？」

十六夜「昨日と変わらねえな。妖狐、騎士狩りを狙いがてら適当に村人を噛むさ。騎士が今も生きているなら恐らく今夜の護衛先は俺かタダクニだろうから襲撃が失敗したらソイツが妖狐でほぼ間違いない。あの面妖なアンパンでもやるか」

シャル「おっけ。じゃあ僕がアンパンマンの部屋のボタン押しておくね」

十六夜「おう。襲撃ボタンはそこだ。俺は部屋に戻ってるから頼んだわ」

十六夜が席を立ち、部屋へと戻る。

そんな十六夜の背中をシャルロットはしばらくぼーっと見つめるのだった。

※※※

く3日目・朝

『朝時間になりました。では皆さん、大広間で話し合いをしてください』

アンパン「今日も元気等倍、アンパンマン!!僕が一番乗りかな!!」

十六夜&シャル「!」

シャル（噛んだのに生きてる…。つてことは彼が妖狐…!）

十六夜（騎士にとつて昨夜の護衛対象を人面アンパンにするメリットは無い……。見つけたぜ妖狐。全く怖いくらいにツイてやがる）

バカボン父「あー！1等賞取られたのだ!!」

やる夫「んお？今日は全員いるお？」

ヴィクトリカ「騎士の手柄か人狼が妖狐を噛んだか、だ」

波平「そういうえばタダクニ君に十六夜君。昨日の判定はどうだったのだね？」

タダクニ「昨日はやる夫さんを見てみたら村人だった。占い師を騙ってたベジータさんが白判定出してたから怪しいと思ってさ」

十六夜「そのベジータは人狼だったぜ。これで人狼はあと1匹だが、妖狐がまだ生存している可能性がある。油断はできねえな」

やる夫「今日は誰を吊るお？カミングアウトした2人の占い師から村人判定を貰った俺は確定村人だから吊れないおwwwwwwww」

ヴィクトリカ「今現在人狼の可能性が高いのは…磯野かアンパンマン…あとバカボンの父親だな」

アンパン「ぼ、僕は違うよ。人狼じゃない！」

バカボン父「ワシも人狼の反対なのだ！」

波平「ぼつかもん！…とりたいところだが生憎反論する材料がないな」

シャル「グレランする？」

バカボン父「グレランするのだ！」

十六夜「グレランやたら推したがるのも怪しいがなお前ら」

十六夜にさらりと疑いをかけられ、シャルロットはピクリと眉をひそめる。

カモフラージュだと分かかっていても何か思うところがあるのだろう。

ヴィクトリカ「別に不自然な事では無いだろう。他に手もないのだろうか？ やろうじゃないか、グレランとやらを」

アンパンマン「ええ!? 運任せなんて良くないよ! まだ時間はあるんだ! じっくり話し合うべきじゃないかな! そうすれば誰が嘘をついてるか分かるんじゃない?」

十六夜（ハッ、そこで必死に反駁するのは下策だろ）

ヴィクトリカ「あのな。その菓子パン。最終的に勝ちさえすれば自分が吊られても何ら問題はないのだよ。確証は無いが低くはない確率で人狼が吊れるかもしれないというのなら喜んで人柱になるのが生粋の村人の考えではないのかね?」

アンパンマン「う…そ、そうかもしれないけど…」

十六夜（この金髪ロリ…少しは頭が回るみたいだな…。コイツのゴスロリの服装を見るに恐らく生まれは18世紀初期のイギリス辺りだろう。

それならば人狼ゲームの存在すら知らない筈だ……。

にも関わらず現時点でこのゲームのセオリーをきちんと理解してやがるみたいだ。
（要注意だな）

『朝時間終了です。これから夕方の投票フェイズに入ります』

〜1日目・夕方〜

投票結果

アンパンマン：↓バカボン父

十六夜：↓アンパンマン

波平：↓アンパンマン

シャルロット：↓アンパンマン

タダクニ：↓波平

ヴィクトリカ：↓アンパンマン

やる夫：↓アンパンマン

バカボン父：↓波平

アンパンマン：5票

波平：2票

バカボン父：1票

アンパン「メンタルやられて…力が出ない…orz」バタツ

『投票により今夜の処刑はアンパンマンに決定しました』

何故か死にかけての様子で卒倒したアンパンマンはそのまま下に開いた穴へと消えていった。

アンパン「うわあぁ……」

『それでは夜時間になります。各自自分の部屋へお戻りください』

4日目

CO一覽

占い師

ベジータ：↓やる夫○↓バカボン父○

タダクニ：↓シャルロット○↓ヴェクトリカ○↓やる夫○

靈能師

十六夜：↓のび太○↓ベジータ狼

狩人

投票一覽

アンパンマン：↓のび太↓ベジータ↓バカボン父

十六夜：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン

波平：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン

のび太：↓十六夜

シャルロット：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン

孫：↓のび太

ベジータ：↓シャルロット↓十六夜

タダクニ：↓のび太↓ベジータ↓波平

ヴィクトリカ：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン

やる夫：↓のび太 ↓ベジータ↓アンパンマン

バカボン父：↓のび太↓ベジータ↓波平

生存者

十六夜

やる夫

ヴィクトリカ

バカボンのパパ

シャルロット・デユノア

磯野 波平

タダクニ

〈3日目・夜〉

シャル「うまくいったね十六夜！あとは吊りを逃れるだけだよ！」

十六夜「いや、もう勝利はほぼ確定だぜ？」

タダクニは間違いない狂人。つまり今夜誰かを嘯んで6人にすれば人狼陣営と村人陣営の数が同じになるからもう俺達の勝ちだ。

ぬるいゲームだったな」

シャル「あはは、何もかもが十六夜の目論見通りだね。怖いくらいだよ」

十六夜「まあ、初心者だらけだったしな。じゃあどいつを嘯むか……」

シャル「ヴィクトリカちゃんとか？」

十六夜「……いや、あの金髪ロリはとっておこうぜ」

シャル「え、何で？」

十六夜「考えてみろよ。明日村人陣営の敗北が確定した時、あの無表情な顔もさぞかしあたふたするに違いない。俺はそんなアイツを見て、ニヤニヤしたい」

シャル「え……十六夜ってそういう趣味？」

十六夜「何だよ、シャルは見たくねえのか？」

シャル「う……うー。ま、まあ見てみた……いかな？す、少しは」

十六夜「だろ？自分に正直になれ。じゃあ、適当に波平の親父でも嘯むか」

十六夜がヤハハと笑い、波平の部屋のボタンを押した。

士に護衛されたということになる……。

しかし2日目夜の時点でも騎士が人面アンパンを護衛する理由は無い……どういことだ?)

表情を変えないように気を遣いながら、十六夜は半刻前まで抱いていた慢心を振り払って最高速度で思考を巡らせ始める。

そしてすぐさま1つの可能性に気が付き、十六夜は心の中で壮絶な舌打ちをした。

十六夜(——この村の騎士は護衛対象をランダムに選別している!?)

非常に考えにくいだが、それ以外に説明がつかない。

そして本当にランダムなのだとしたら予測のしようがない。

十六夜(まずい、ということはこの村にはまだ妖狐が生存している可能性がある！)

万が一騎士が2日目夜に人面アンパン、昨夜に波平の親父を護衛していたとすれば狂人だと思っていたタダクニが妖狐ということもあり得てくる……。妖狐がないのが分かれば楽なんだがな……。

——クソツ、考えろ。どうすればいい!?)

波平「十六夜君！」

十六夜「！」

大声で名前を呼ばれ、十六夜ははっと我に返る。

波平「どうしたのかね。ぼーっとしおって」

十六夜「…悪い。考え事してた」

シヤル「昨日の吊り結果はどうだったのかだつて」

十六夜「ああ。昨日吊られた人面アンパンは村人だったよ。まあ、こうしてゲームが続いてるんだから当然だよな」

タダクニ「俺は昨日やけに発言が少なかった波平さんを占ったんだけどさ。みんな、見つけたぜ。最後の人狼は波平さんだ！」

一同「!!?」

波平「バ、バツカモオオオオンツ!!ワシが人狼じゃと!?お前さんが偽物だったのかタダクニ!!」

波平が顔を真っ赤にして叫ぶ。

当然だろう。濡れ衣なのだから。

十六夜「…タダクニの言う通りなら波平の親父を吊れば人狼は全滅。ただ妖狐がまだいるのか分からねえんだぞ。妖狐の死が確認できるまで波平の親父は生かしておくか？」

タダクニ「いや、もう吊れる回数に余裕は無いはず!どちらにしろ妖狐は今まで吊ってきた奴の中にいた確率の方が高い!今日は波平さんを吊るべきだ!それで村人の勝

ちなんだから!」

十六夜(……何を考えてやがるんだタダクニ……。お前の視点なら今残っている人狼は1人。つまりここで波平を吊つても妖狐がいる限り人狼陣営の勝ちにはならない。かといってお前が妖狐だとしても明日嘘がばれて吊られるだけだぞ。……チツ、自棄になりやがったか)

ヴィクトリカ「では今日のところは結果通り磯野を吊ろうじゃないか。それでもまだゲームが続くようならタダクニは人外確定だ」

波平「ぐぬぬ……!」

ヴィクトリカ「おや? これまでの君の様子では自分が成すべき事くらいは理解できているはずだが。なのに何故自分が吊られそうになるのは拒むのだね? いかにも人外っぽいぞ」

波平「なんじやと!」

タダクニ「だつて人外だもんな」

波平「なんじやとオツ!!」

やる夫「あれ、よく分からなくなってきたお」

シャル「僕もだよ…何が何だか」

十六夜(真占い師は十中八九ベジータ…。ならばやる夫とバカボンの親父が妖狐の線

は消える。すると残るはタダクニ、波平、ヴィクトリカ…。

いや、金髪ロリは無さそうだな。あの面子では一番頭の切れるあいつが呪殺されるリスクが高い村人のフリをして潜伏し続けるわけがない)

※呪殺Ⅱ妖狐が真占い師に占われて死ぬこと。

十六夜(それに自然に考えてランダム護衛が2日連続で成功するのはやはり考えづらい。人面アンパンか波平のどちらかが妖狐だったってのが確率としては一番高そうだし。そしてタダクニは明日占い結果が破綻して吊られる。

……なるほどね、タダクニの奴がそこまで考えていたかは分からないがどちらにしろこれで妖狐は吊れるってわけか。やるじゃねえか)

波平とタダクニがしばらく口論していたが、十六夜は気にも留めないで考え続ける。

十六夜(騎士も絞れるか……。ヴィクトリカかやる夫かバカボンの親父で言えば一番怪しいのはバカボンの親父かな。馬鹿も度を越せば予測不可能な存在と成り得る……)

やる夫「あ、もう時間だよ」

『朝時間終了です。これから夕方の投票フェイズに入ります』

〈1日目・夕方〉

投票結果

十六夜：↓波平

波平：↓タダクニ

シャルロット：↓波平

タダクニ：↓波平

ヴィクトリカ：↓波平

やる夫：↓波平

バカボン父：↓波平

波平：6票

タダクニ：1票

波平「ど、どいつもこいつも……皆……バツカモオオオオオオッ!!」

『投票により、今夜の処刑は波平さんに決まりました』

パカッと床が開き、波平は発狂しながら落ちていった。

波平「ウガアアアアアアアアアアアアッ!!」

『それでは夜時間になります。各自自分の部屋へとお戻りください』

5 日目

C O 一覽

占い師

ベジータ：↓やる夫○↓バカボン父○

タダクニ：↓シャルロット○↓ヴェクトリカ○↓やる夫○↓波平狼

靈能師

十六夜：↓のび太○↓ベジータ狼↓アンパンマン○

狩人

投票一覽

アンパンマン：↓のび太↓ベジータ↓バカボン父

十六夜：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平

波平：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓タダクニ

のび太：↓十六夜

シャルロット：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平

孫：↓のび太

ベジータ：↓シヤルロット↓十六夜

タダクニ：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平

ヴィクトリカ：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平

やる夫：↓のび太 ↓ベジータ↓アンパンマン↓波平

バカボン父：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平

十六夜

やる夫

ヴィクトリカ

バカボンのパパ

シヤルロット・デュノア

タダクニ

く 4日目・夜く

十六夜「……」

十六夜（この違和感はなんなんだ？何か引つ掛かる…）

シャル「ねえ十六夜」

十六夜「…ん、なんだ？」

シャル「明日はどうするの？なんか楽観はできなくなってきたよね」

十六夜「ああ…。とりあえず妖狐は波平の親父かアンパンマンだ。どちらにしろ明日で妖狐は片付くと考えていい…と思う」

シャル「…波平さんかアンパンマンのどちらかは騎士に護衛されたってことだよね？
あるいはどちらにも」

十六夜「そうだ。この村の騎士はランダムで護衛対象を選んでいる。しかしランダムで2日連続俺達の襲撃を防げる確率は56分の1だ。有り得ない確率ではないが考察から除外しても問題ないだろ」

シャル「…うん。そうだね」

十六夜「偶然かは知らないが結果的にタダクニが身体を張って妖狐を吊りにまで持つていつてくれた」

シャル「…でも明日タダクニ君吊られちゃうよね」

十六夜「ああ。タダクニが人外なのが明日で明らかになる。そしてタダクニを吊った

後、次に疑いの目を向けられるのはタダクニが村人判定を出した奴らだな」

シャル「それって……僕とか？」

十六夜「ああ。シャルももちろん入るよな。それとは別にタダクニが偽物だとわかったことでもしかしたら俺を霊能騙りと判断してベジータを真と見る奴が出てくることもあるかもしれない。

アイツは言動が奇妙で皆に信用されなかっただけで決定的な矛盾は起こしていないからな」

シャル「うんうん」

十六夜「で、あのM字野郎は俺とシャルが人狼だと言い残して吊られたよな。何故分かったのかは分からないが」

シャル「うん。……あれ、僕たち結構危ない？」

十六夜「……いや？脅してはみたが別に大丈夫だ」

シャル「え？そうなの？なーんだ」

十六夜「ああ。とりあえず今日誰かを噛めれば明日村の人数は5人になる。で、タダクニを吊ると4人。そうすれば翌日には人狼の人数≪村人の数になって票数を合わせれば今度こそ俺達の勝ちになる」

シャル「……やっぱり十六夜を信じて良かったよ」

十六夜「ハッ、俺の有能っぷりに全米が涙してもいいんだぜ？」

シャル「あはは。なにそれ。私の知り合いよりギャグセン高いよ十六夜」

十六夜「当然だろ。つーわけで今日は騎士を嘯みに行く」

シャル「嘯みに行くって……誰だか分かるの？」

十六夜「まあ完全に憶測なんだけどな。シャルは誰だと思う？」

シャル「え？えーと……ヴィクトリカちゃん？あの子凄い頭良さそうだし」

十六夜「……と思うだろ？俺はバカボンの父親だと思っ」

シャル「え？バカボンのパパ!?一番無いと思っってたよ」

十六夜「さつき言っただようにこの村の騎士はデタラメに護衛先を決めてる。占い師や霊能師がいるにも拘わらずな。そんな暴挙普通の人間が出来るわけが無い。常軌を逸した馬鹿を除いて……な」

シャル「おー。そういうことかあ」

ポンッと手を叩くシャルロツト。

十六夜「そういうわけだから今夜はバカボンの親父を片付ける。不確定要素さえ取り除ければ如何様にでもなるだろうからな……」

十六夜（とはいえ……）

十六夜は自分で自分に説明するように話しながらもどこか胸に引つ掛かるものが

あった。

十六夜（……本当にこれでいいのか。いくらなんでもこれで終わるんじゃないや簡単すぎる……）

ルールを聞いただけでセオリーまで理解できるレベルの頭脳を持っているヴィクトリカなら今の状況は普通に解していそうなものだ。

もし彼女が村人陣営ならこの展開になるのは避けるように仕向けるはず。

——村人陣営なら、だ。

十六夜（もしや妖狐は金髪ロリか……？……もし仮にアイツが妖狐陣営なら、村人を1人も噛めば人狼の数≪村人の数になり確かに俺達は負けるが……）

シャル「十六夜？どうしたの黙りこくって」

十六夜（考えすぎか？買い被りすぎか？

そもそもヴィクトリカの奴が妖狐である確率はかなり低い。

……だが有り得ない事じゃねえ。アイツは真占い師らしきベジータからの占いは受けていないし、これまでのアイツの振る舞いでも妖狐なら納得のいく場面がいくつかある。

もしも今まで俺達が奴の掌の上で踊らされていたのだとしたら……）

シャル「おーい十六夜？」

十六夜（……ここはヤマを張るか。もし間違えても巻き返しは可能だしな）
シャル「熱でもあるの？」

十六夜「ん？」

ぴとつとシャルロットが自分のでこを十六夜のでこにくつつけた。

十六夜「……」

シャル「……平熱だね」

十六夜（中々の女子力だなコイツ。いや、それは今どうでもいい）

十六夜「シャル」

シャル「ん？なに？」

十六夜「作戦変更だ。今夜はヴィクトリカを嘯む」

シャル「……え？何で？」

十六夜「回りくどくはなるがそれが一番低リスクな気がしてきたんでな。その為にシャルにやつてもらわなきゃいけない事がある。辛い役回りだろうが、頼む」

シャル「……うん。いいよ。何をすればいいの？」

十六夜（明日ヴィクトリカが生きていた場合、騎士による護衛も考えられるが、この際その可能性は捨てる。ここは賭けだ。杞憂であることを願うぜ）

※※※

く5日目・朝く

『朝時間になりました。大広間で話し合いをしてください』

やる夫「俺が一番だお！人狼はどうなったお!？」

バカボン父「コニヤニヤチハ！また一番取られたのだ！」

十六夜「おい、波平の野郎は人間だったぜ？お前の判定が破綻したが言うことあるか

コラ」

やる夫「タダクニ偽物だったお!?!じゃあタダクニ吊れば勝ちお!？」

タダクニ「くっ…」

ヴィクトリカ「おや、今日も平和日…：…かね」

シャル「騎士さん凄いなー！」

シャル（ヴィクトリカちゃん生きてる…：…）

十六夜（…：…）

ヴィクトリカ「じゃあ、今日はタダクニを吊ってお開きといこうじゃないか」

タダクニ「おうおう勝手に吊ってくれ」

やる夫「やったお！もう俺達の勝ちお！」

バカボン父「よく分からんがそれでいいのだ!!」

十六夜「チツ、真占い師はあのM字だったのか？」

そこで十六夜が左手でポリポリと頭を搔いた。

それを見たシャルロットが小さく頷く。

シャル（合図だ……！……分かったよ十六夜）

シャル「待つて皆！」ガタツ

ヴィクトリカ「？」

十六夜「……なんだよシャルロット」

シャル「…皆、よく聞いて欲しいんだ」

やる夫「なんだお？」

バカボン父「逆立ちで聞いてやるのだ」

シャルロットは1つ深呼吸してから、口を開いた。

シャル「……カミングアウトするね。僕は…人狼です」

ヴィクトリカ「！」

タダクニ「何？」

バカボン父「アーツと驚く為五郎なのだ！」

やる夫「いきなり言われてもお」

シャル「信じる信じないは君たちの判断でいいよ。ただここでタダクニ君を吊ると人狼の数Ⅱ村人の数となり、僕らはもちろん君達村人陣営もここに潜伏している妖狐に負ける」

十六夜「妖狐だと？」

やる夫「それ誰なんだお？」

シャル「それは言えないよ。とりあえず今日のところは僕を吊っていい。そうすれば再びどのチームにも勝てるチャンスが出てくる」

やる夫「妖狐の正体も言わねえで人狼の提案に乗れってお？」

シャル「だから信じる信じないはどちらでもいいって言ってるじゃないか。たとえ僕言うことがハツタリだとしても、君達に損はない取引だと思っけど。」

人狼が吊れるんだから……ね？」

バカボン父「乗るのだ！今日の吊りは決まりなのだ!!」

タダクニ「人狼が……何で……」

やる夫「うーん、なら俺も賛成だお」

ヴィクトリカ「…デユノア。君が本当に人狼なのだとしたら逆廻の霊能結果を考慮すれば今日で2人目の人狼が吊れるということになり、このゲームが明日も続けば君の発言とは矛盾する。君は本当に人狼なのかね？それとも逆廻が騙りというわけか」

シャル「さあ？どうだろうね」

十六夜（流石によく気付くなコイツ。まあこれは想定内だ。シャルロットは人狼騙りの狂人だったと言えば済む話だしな）

バカボン父「難しいことはいいのだ！」

『朝時間終了です。これから夕方の投票フェイズに入ります』

く1日目・夕方く

投票結果

十六夜：↓シャルロット

タダクニ：↓シャルロット

シャルロット↓タダクニ

やる夫↓シャルロット

ヴィクトリカ：↓シャルロット

バカボン父：↓シャルロット

シャルロット：5票

タダクニ：1票

『投票により本日の処刑はシャルロットさんに決まりました』

シャル（じゃあ、任せたから）

パカツと足場が開き、シャルロットは片手でスカートを押さえながら虚空へと落ちていった。

十六夜（…さて、ここから俺のゲームメイクだ金髪ロリ。てめえは俺の手で処刑してやる）

ヴィクトリカ（てつきり騎士を吊りにくると思っていたが、中々勘が回るじゃないか人狼陣営…いや、逆廻十六夜。

このまま終わってしまったら退屈しのぎにもならないところだったよ）

『では夜時間になります。各自自分の部屋へお戻りください』

6 日目

CO一覽

占い師

ベジータ：↓やる夫○↓バカボン父○

タダクニ：↓シャルロット○↓ヴィクトリカ○↓やる夫○↓波平狼↓破綻

靈能師

十六夜：↓のび太○↓ベジータ狼↓アンパンマン○↓波平○

狩人

投票一覽

アンパンマン：↓のび太↓ベジータ↓バカボン父

十六夜：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット

波平：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓タダクニ

のび太：↓十六夜

シャルロット：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平

孫：↓タダクニ

ベジータ：↓シャルロット↓十六夜

タダクニ：↓のび太↓ベジータ↓波平↓シャルロット

ヴィクトリカ：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット

やる夫：↓のび太 ↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット

バカボン父：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平↓シャルロット

生存者

十六夜

やる夫

ヴィクトリカ

バカボンのパパ

タダクニ

く 5日目・夜く

十六夜（ヴィクトリカを妖狐と仮定するならば村に残る役職は人狼、妖狐、騎士、狂人、村人それぞれ1人ずつのはずだ）

十六夜（シャルが戦線離脱したことで村の吊り回数には1日分だけゆとりができた）

十六夜（明日だ：明日のデイベートでヴィクトリカを処刑台へと送らなければいけない）

十六夜（とりあえず今夜のところは誰を噛む？騎士であるバカボンの親父が妥当か？しかし投票の際一番誘導しやすいのもまたバカボンの親父だ。

俺が人狼だとして一番噛みそうにない位置にいる人物……。そうだ、やる夫でも噛むか。何気にアイツも勘が鋭いからな。マジで護衛には当たらないことを願って……）

迷いながらも十六夜はやる夫の部屋のボタンを押した。

十六夜（……で、6日目の朝はどうするか）

十六夜（俺は一度ベジータの奴に黒判定をつけちゃまっている。これは俺の失策だったな。お陰で俺は明日シャルを人狼判定にするわけにはいかなかった）

十六夜（……そういうわけで建前的な俺の視点ではシャルが狂人となり、タダクニが妖狐又は人狼に定まる。……いや、タダクニのあの無謀な破綻行為からして妖狐と考えるのは不自然か）

十六夜（——あ？）

十六夜の動きが本当に一瞬止まった。

やる夫がこうして普通に生きているということとは5回の襲撃のうち3回が失敗に終わったということだ。

さしもの十六夜も青天の霹靂といった様子で動揺する。

十六夜（オイオイやる夫の奴昨夜の護衛対象だったのかよ。大人しくバカボンの親父 噛んどきや良かったな…）

十六夜「…今日も平和日か。人狼の奴襲撃忘れてんのかよ」

ヴィクトリカ「ああ。そうとしか思えない無能ぶりだ」

やる夫「今日は誰を吊るんだお？タダクニお？」

十六夜「いや、シャルロットが村人判定だったことからタダクニが人狼の線が濃くなってきた。シャルロットの奴が吊られる前に口走った通り、この村に狐がまだいるならば今日タダクニを吊るのは危険だ」

バカボン父「なるほどなのだ」

タダクニ「…なんつう生き殺し」

やる夫「タダクニ吊らないのかお…：じゃあグレランするお」

やる夫の発言にヴィクトリカがピクリと眉をひそめる。

ヴィクトリカ「…ほう？あの騒がしいベジータとかいう奴を真占い師と見るなら……
要するに君は私を吊りたいということになるが」

やる夫「え、どうということお？今グレーなおまいだけなのお？」

ヴィクトリカ「おや、やる夫……。君は今ろくな勤孝もせずにそんな開陳をしたというのかね？もう吊れる回数にも限りがあるというのに。私にはグレランを推すことで自分は絶対に吊られない立ち位置に行くという安直な工作にしか見えないよ」

やる夫「んなわけねえおwwwwwwwwwwだつて俺が村人じゃなかったらベジータが人外か俺が狂人つてことになつて……あれ？……ええと……」

ヴィクトリカ「何だね？」

バカボン父「む？何か怪しくなってきたのだ！」

やる夫「そ、そういうおまいこそ怪しいおwwwwwwwwww人の意見に流され過ぎワロツシユwwwwwwwwww」

バカボン父「うるさいのだ！バカは罪じゃないのだ！」

ヴィクトリカ「そうだ。バカボンの親父さんは悪くないぞ」

バカボン父「そう！ワシはいい人なのだ！ヴィクトリカもいい人なのだ！」

『朝時間終わりです。これから夕方の投票フェイズに入ります』

投票結果

十六夜：↓やる夫

タダクニ：↓やる夫

やる夫↓バカボン父

ヴィクトリカ：↓やる夫

バカボン父：↓やる夫

やる夫：4票

バカボン父：1票

『投票により本日の処刑はやる夫さんに決まりました』

やる夫「おまいらいつか2ちゃんねら総力を上げて潰してやるお……!!」

ガコンと穴が開き、やる夫は落ちていった。

バカボン父「随分人も減ってきたのだ」

タダクニ「何で俺生かされてんだ……」

ヴィクトリカ（……どうだ逆廻？これこそが君の望んだ展開なのだろう？予定が修正されて一安心というところか。だが既に混沌（カオス）は揃っている。後は運次第……。最

後の賭けさえ上手く当たれば……終幕に立っているのはこの私だ……！)

十六夜（金髪ロリの奴……強引にやる夫が吊られる流れに誘導しやがった……。まあちようどいい。これなら1日だけ予定が繰り下がっただけだ。今日はやる夫を吊り、明日こそヴィクトリカを片付ける。大丈夫だ、奴の策は読んでいる……！)

『では夜時間になります。各自自分の部屋にお戻りください』

7 日目①

C O 一覽

占い師

ベジータ：↓やる夫○↓バカボン父○

タダクニ：↓シャルロット○↓ヴィクトリカ○↓やる夫○↓波平狼↓破綻

靈能師

十六夜：↓のび太○↓ベジータ狼↓アンパンマン○↓波平○↓シャルロット○

狩人

投票一覽

アンパンマン：↓のび太↓ベジータ↓バカボン父

十六夜：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓やる夫

波平：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓タダクニ

のび太：↓十六夜

シャルロット：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平

孫：↓タダクニ

ベジータ：↓シャルロット↓十六夜

タダクニ：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平↓シャルロット↓やる夫

ヴィクトリカ：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓やる夫

やる夫：↓のび太 ↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓バカボン父

バカボン父：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平↓シャルロット↓やる夫

生存者

十六夜

ヴィクトリカ

バカボンのパパ

タダクニ

↓6日目・夜↓

十六夜(明日で最後だ…。騎士はバカボンの親父、狂人はタダクニ、そして妖狐はヴィ

クトリカだ。間違いない)

十六夜(今日誰かを噛んで村人を減らしちまうと、無条件で妖狐の勝ちになっちまう。そういうわけで癪だが今夜はまたヴィクトリカを噛んで平和日にするしかない)

十六夜(とにかく速攻勝負だ。ヴィクトリカの奴より先に機先を制して俺が村人の視点で奴が妖狐だということを告発する!)

十六夜(証拠は十分だ。終わりだぜ金髪ロリ)

く7日目・朝く

『朝時間になりました。大広間で話し合いをしてください』

十六夜(最終日…。あばよヴィクトリカ・ド・ブロワ)

ヴィクトリカ(よしよし上手くいった。計画通り。私の勝ちだよ逆廻十六夜)
タダクニ「あれ、今日も誰も噛まれていないのか?」

バカボン父「騎士が優秀なのだ!!」

十六夜「言うまでもないがやる夫は村人だったぜ」

タダクニ「…まあ、あいつが村人だから続いているんだよな」

バカボン父「誰を吊るのだ？タダクニなのだ？」

十六夜「ちよつといいかお前ら」

突然十六夜が手を挙げて辺りの注意を引く。

バカボン父「む？」

十六夜「今この村には霊能師、騎士、人狼、妖狐が残っている。人狼はタダクニだろうよ。問題なのは妖狐が誰か、ということだ」

タダクニ（俺は人狼じゃないが…本物の人狼は誰なんだろう）

バカボン父「妖狐って誰なのだ？さっぱり分からないのだ」

十六夜「考えるまでもない。お前なんだろう？ヴィクトリカ」

ヴィクトリカ「……………」

十六夜「おいおい、黙秘は是と受け取るぜ」

バカボン父「そ、そうなのかヴィクトリカ？」

タダクニ「でも何で…？」

十六夜「いいか、ヴィクトリカの動きはこうだ。

まず2日目の朝にベジータが占い師をカミングアウトし、根拠のないレツテルを俺とシャルロットに貼り始めた。

確かにあれは占い師としてはあるまじき行為だったが、それだけでベジータを偽と決

め打つにはまだ気が早い。

その時はタダクニが真占い師かも分からなかったんだからな。

しかし、不安要素を出来るだけ早く排除したかったお前は周りに便乗してベジータを排撃し、票を合わせて処刑した」

十六夜「そして3日目の朝、お前は意図的に妖狐の話題を剃らし、あの時点での人狼候補の人物名を列挙することで村全体の意識が人狼を吊るという流れになるよう仕向けたんだ。

だがグレランで自分が吊られるのを恐れた賢いお前はアピールも兼ねてアンパンマンを糾弾し、村人にしては不自然だという印象を村に与えることで見事アンパンマンを吊ることに成功した」

ヴィクトリカ「……」

十六夜「4日目は金髪ロリが動くまでもなくタダクニが波平の親父に狼判定を下した。

4日目の時点までは真占い師とされていたタダクニの言うことだから皆が信用しただろう。俺も騙された。

そして波平の親父を煽って恒例の村人アピールをしつつ、無事波平の親父を吊った」
十六夜「5日目は波乱だったな。シャルロットが自ら人狼をカミングアウトし、この

村にまだ妖孤がいると口を割った。

だが5日目の時点で平和日だった回数は3回。人狼がこうも何度も妖孤を嘯むとは思えない。

ということはこの村の人狼は騎士にいいように翻弄されていて、実際には妖孤の確定はできていなかったんだろうな。

そうなると必然的シャルロットは狂人という可能性が高まる」

十六夜「しかし狂人なのに役職騙りをするのが出来なかったシャルロットは自分の首と引き換えに村に混乱を招かせ、自身の役割を全うしようとした。

お前はそれで再び村が妖孤の存在を認識しはじめたことに焦ったんだろう。

6日目になってお前はやけに積極的になってただの村人に過ぎないやる夫を執拗に責め立て、その後状況を把握できていないバカボンの親父の肩を持つことで吊りを免れた…。

そして今日に至る訳だ。本物の占い師が早い内にリタイアしたもんだからさぞかし気は楽だっただろうな？妖孤さんよ」

タダクニ「おお…すげえ」

ヴィクトリカ「…立論の根拠が乏しいな。君の主張はただ私の行動の経緯に君の主観で塗り固めた私の心理背景を準えただけに過ぎない」

十六夜「言つてろ。凶星なんだろ？辻棲は合つてんだよ」

ヴィクトリカ「まあ辻棲が合つてるが……それだけなのだよ。ならいくつか問おうか。私が妖孤だとして何故私は占い師に占われる危険性の高い村人を演じたのだ？」

十六夜「逆に占い師さえ何とかしまえば良かったんだろ？村人が妖孤だと勘繰られることは役職晒しての奴よりは少ないからな。」

お前とて2日目の朝は何かしらの役職に騙ろうとは思つていたんだろうよ。だがあの時は開幕からM字の奴がやらかしてくれたしな。奴を真占い師と見たお前はその必要は無くなったと踏んでそのまま潜伏した」

ヴィクトリカ「なるほどなあ。なら、私を妖孤だと断定した訳は何だね？」

十六夜「夜時間の間に生存者と照らし合わせてしらみ潰しに模索してたからだよ。つまんねえこと聞くな」

ヴィクトリカ「そうかそうか、ではもう一つ。」

——君は何故ベジータが真占い師なのを前提に持論を展開しているのかね？」

十六夜「……………は？」

斜め上の質問をされ、十六夜は怪訝そうに眉を潜めた。

十六夜「…何故って、そりやベジータが真占い師で全ての筋が通るからに決まってるだろ」

ヴィクトリカ「ベジータはただの村人であるにも拘わらず、君とデュノアが人狼だというのを伝えたかったがためにわざわざ占い師を騙っていたとしたら？」

十六夜「…何が言いたいんだ？話をすり替えてんじやねえぞ金髪ロリ」

ヴィクトリカ「…やれやれ…。どうやら君も中途半端な秀才の域を出なかつたようだな。言語化してやらなくては駄目か」

十六夜「何だと？」

睨む十六夜を横目にヴィクトリカは席から立ち上がると、懐からパイプを取り出してプカプカと吸い始める。

そして軽やかな足取りで円に配置された座椅子の中心に躍り出ると、十六夜の方を向き直って口を開いた。

「——混沌（カオス）を再構成してやろう」

7 日目②

C O 一覽

占い師

ベジータ：↓やる夫○↓バカボン父○

タダクニ：↓シャルロット○↓ヴィクトリカ○↓やる夫○↓波平狼↓破綻

靈能師

十六夜：↓のび太○↓ベジータ狼↓アンパンマン○↓波平○↓シャルロット○↓やる

夫○

狩人

投票一覽

アンパンマン：↓のび太↓ベジータ↓バカボン父

十六夜：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓やる夫

波平：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓タダクニ

のび太：↓十六夜

シャルロット：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平

孫：↓タダクニ

ベジータ：↓シャルロット↓十六夜

タダクニ：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平↓シャルロット↓やる夫

ヴィクトリカ：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓やる夫

やる夫：↓のび太 ↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓バカボン父

バカボン父：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平↓シャルロット↓やる夫

生存者

十六夜

ヴィクトリカ

バカボンのパパ

タダクニ

↳7日目・朝／話し合い中↳

十六夜「……」

ヴィクトリカ「私が『知恵の泉』で散らばった混沌達を退屈しのぎに弄び、再構成した真実を説明してやろう」

十六夜「……いいぜ、聞いてやる」

ヴィクトリカ「まずだね。さつき君、シャルロットは狂人だと言っていたな？」

十六夜「ああ言ったが」

ヴィクトリカ「残念ながら私にはそう思えないのだよ。理由はどうであれ今まで役職すら騙れず、寡黙気味だった彼女が4日目になって突然自身の決断であるような大胆な行動に出たというのはどうも考えにくい。

しかも狂人であるはずの彼女が人狼の内部事情を完全に把握していたことになる。

だったらそれよりも人狼であるデユノアの背後にそこそこ優秀な知謀が控えていたと考える方が自然じゃないかね？

……ちようど君のような」

十六夜「くだらね。俺が人外だとも言いてえのか？」

ヴィクトリカ「その通りだ。私は君とデユノアが人狼だと思っている」

タダクニ&バカボン父「!？」

十六夜「ハッ、ベジータの戯言と同じかよ。お前はもちろん根拠があつて言ってるんだらうな？何となくですは無しだぜ」

ヴィクトリカ「勿論さ。ところでベジータが吊られた後、君がタダクニを真占い師と決め打っていたのは何故だね？」

十六夜「何故も何もあの場に出た占い師は2人だ。ベジータが吊られたならどちらにしろタダクニを真と見るのは当然だろ」

ヴィクトリカ「確かにベジータの発言には問題があつたよ。しかしだな君。彼の行動に決定的な矛盾は生じていなかっただろう？」

君の言葉を借りるなら、あの時点ではベジータが偽占い師とは断定できなかつたはずだ。

それにも拘わらず何故君は彼を排除しようとしたか。

理由は単純明快。凶星だったからだよ。

真実を言い当てられて動揺した君はどうしても彼を排除せざるを得なかつた」

十六夜「……」

ヴィクトリカ「客観的に考えてみたまえ。あれだけメチャクチャな発言内容だ。実際は君が何も言わなくてもあの場では誰もベジータのことは信用していなかつたさ。

で、話は戻すが何故君はタダクニを真占い師と見たのか」

十六夜「だからあの時点で俺は残ったタダクニを信用するしかなかっただろ」

ヴィクトリカ「違うな。君は2日目の朝に気付いたのだ。タダクニは騙り占い師だと。人狼陣営とつて都合のよい人物だと」

十六夜「ッ!?!」

ヴィクトリカ「人狼であるデュノアに村人判定を下したことでタダクニを人外だと断定した君は彼が真占い師だという認識を確実に村に植え付ける為、翌日の霊能結果ではベジータは狼だった、ということにした」

十六夜（コ、コイツ……）

ヴィクトリカ「初日の朝にデュノアが何か言いたげにモジモジしてたのを見るに、おかた君はデュノアに占い師を騙るように指示していたのだろう。」

だがデュノアが騙るまでもなく占い師が2人出てきた。

しかもその内片方は人狼であるデュノアに村人判定を下してきた。

これを好機とばかりに君はベジータを糾弾し、すかさず彼を処刑する方向に村を誘導したのだ。」

ヴィクトリカ「で、3日目。中途半端な秀才である君ならば真占い師を葬った後は妖狐の始末をしようとするだろう。」

そして君はこう考えたはずだ。

騎士の護衛先は占い師や霊能師になるはずだから適当に妖狐を狙いがてら役職を名乗り上げていない村人を狙おう……と。

そして幸運にもその日は襲撃に失敗し、君はその日の襲撃相手が妖狐であると推測する」

ヴィクトリカ「翌日、占い師や霊能師を噛む必要は無い君は前日と同じく適当に誰かを噛んだわけだ。

しかしまたもや失敗に終わる。

さぞかし焦ったことだろうよ。

無作為に標的を選んでそれが2日連続で失敗するということは、すなわち騎士が村人をランダムに護衛しているということになるのだから。

それに加え、前日に噛んだ人物が妖狐だとは限らなくなる。

だから君は再び思案に更けるわけだ。

妖狐は一体誰なのかと」

十六夜（……………！）

ヴィクトリカ「そして4日目の夜を迎えた君は、未だに妖狐が生存している蓋然性が無きにしも非ずと悟り、やむを得ず1つの作戦をデユノアに伝えたのさ。

恐らくその内容は

「今夜誰かを嘯めば人狼と村人の数が同じになってしまい、もし妖狐が生存していた場合自分達は負けてしまう。」

「だから明日お前は自分が人狼であることを告発し、村に妖狐の存在を伝えてから人柱として吊られてくれ。」

「……といったところだろう。」

「さっきの君の言い分を聞くに、この時点で君は私が妖狐だと勘ぐっていたのだろうか。」

「そして乾坤一擲いざ私を嘯んでみると翌日私は生きていた。」

「騎士に護衛されたという可能性は切り捨て、君はそこで私が妖狐だと断定する。」

「……違うかね？」

「十六夜（……コ、コイツ……そこまで考えを巡らせていやがったのかッ……!!）」

「十六夜がかすかに表情を強張らせると、ヴィクトリカはくすつと小さく微笑んでさらに続けた。」

「ヴィクトリカ」そして目論見通りにデユノアを退場させ、その夜君は私以外の者を嘯んで人狼1、妖狐1、村人2の状況を作ろうとした。

「翌日に私が妖狐であることを告発して私を吊り上げ、明くる日にバカボンの父を嘯んで勝利を掴む予定だったのだろうか。」

ヴィクトリカ「ところがどっこい君は不運にもまたもや襲撃に失敗してしまふ。

君の計画ならば私を嘯むことはない。

便宜上人狼であるタダクニも勿論嘯まない。

そして襲撃にしくじったということは騎士であるバカボンの親父さんは嘯んでいない。

つまりあの時の君の標的はやる夫だったということになる」

バカボン父「な、何でバレているのだ!？」

ヴィクトリカ「しかし私にとつてもやる夫は邪魔な存在だったのでね。

昨日は私がやる夫を吊るよう誘導してやったのだよ。

そして今に至るわけだ」

十六夜「……詭弁だぜ。全てお前の憶測じゃねえか」

ヴィクトリカ「その言葉そっくりそのまま君に返すよ」

十六夜「チツ……」

ヴィクトリカ「どうしたのかね? 訂正があるなら聞くが」

十六夜(……訂正なんてある訳が無い。所詮憶測だと片付けるにはあまりにも的確過ぎてぐうの音も出せねえ。

……つたく、想定外もいいところだ。頭が切れる奴だとは思っていたが、まさかこ

までとは……。

——だがまあ、勝敗は別だがな
十六夜は不敵に口の端を上げた。

7日目③

CO一覽

占い師

ベジータ：↓やる夫○↓バカボン父○

タダクニ：↓シャルロット○↓ヴィクトリカ○↓やる夫○↓波平狼↓破綻

靈能師

十六夜：↓のび太○↓ベジータ狼↓アンパンマン○↓波平○↓シャルロット○↓やる

夫○

狩人

投票一覽

アンパンマン：↓のび太↓ベジータ↓バカボン父

十六夜：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓やる夫

波平：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓タダクニ

のび太：↓十六夜

シャルロット：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平
 孫：↓タダクニ

ベジータ：↓シャルロット↓十六夜

タダクニ：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平↓シャルロット↓やる夫

ヴィクトリカ：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓やる夫

やる夫：↓のび太 ↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓バカボン父

バカボン父：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平↓シャルロット↓やる夫

生存者

十六夜

ヴィクトリカ

バカボンのパパ

タダクニ

〜7日目・朝／話し合い中〜

十六夜は暫く黙り込んだ後、やがて両手を上げて降参のポーズをとった。

十六夜「……分かった分かった。降参だ。お前の言う通り俺が人狼だよヴィクトリカ」

タダクニ&バカボン父「!?!」

ヴィクトリカ（おや、やけにあつさりと退いたな……。ちよつと拍子抜けだぞ）

十六夜「でも、だからどうした?」

ヴィクトリカ「……ん?何がだね?」

十六夜「俺が人狼だがお前は妖狐だ金髪口り。つまり俺を吊ってもお前を吊つても、

最早村人陣営の勝利にはできない。」

バカボン父「な、なんですと!?!」

十六夜「おまけにタダクニは狂人。つまりこちらの味方だ。投票で俺が負けることは
まずない。そうだよなタダクニ」

タダクニ「あ、ああ!」

十六夜「そういうわけだ。俺の正体を暴いたところで勝率は2分の1だ」

ヴィクトリカ「そうだな。2分の1だ」

『朝時間終了です。これから夕方の投票フェイズに入ります』

※※※

〈7日目・夕方〉

投票結果

十六夜↓ヴィクトリカ

タダクニ↓ヴィクトリカ

ヴィクトリカ↓十六夜

バカボン父↓十六夜

十六夜：2票

ヴィクトリカ：2票

『同数になりました。本来ならば十六夜さんとヴィクトリカさんの決選投票をするところですが、この人数では結果が変わらないことが予想されます

なので2人は今からジャンケンをしてください。負けた方を本日の処刑対象としま

す。また、不正を働いた場合は負けと見なします』

十六夜「…ハッ、こっただけ戦わせておいて最後は運頼みかよ」

ヴィクトリカ「悪くない。本来負けるところだった私達からすれば有り難すぎる申し出だ。ここで決着を着けよう。逆廻十六夜」

十六夜「…ああ上等だ。じゃあいくぜ金髪ロリ。最初はグー、じゃんけん——」
ヴィクトリカ「あ、待ちたまえ逆廻」

今まさに第三宇宙速度で手を繰り出そうと腕を振りかぶっていた十六夜を引き留めるヴィクトリカ。

氣勢を削がれ、あからさまに十六夜が舌打ちをする。

十六夜「…何だよ」

ヴィクトリカ「よく聞け逆廻。私はパーを出すぞ」

十六夜「——ッ!!」

ヴィクトリカの宣言を聞き、十六夜の身体中に人狼ゲーム開幕以来感じたことのない戦慄が迸った。

十六夜（コ、コイツ……！このタイミングで俺に揺さぶりを仕掛けてきやがったッ……!!）

不敵にニヤリと笑うヴィクトリカを睨み、十六夜は1歩2歩その場から後退りした。

ヴィクトリカ（さあ、どうでる逆廻？）

十六夜（いや待て、落ち着け俺……！俺らしくもない。考えろ。

今俺にパーを出すと宣言した時、金髪ロリの脳内には2つのシミュレーションが稼働している筈だ…。

①は『俺がパー出し宣言を真に受けてチョキを出した時に備えてグーを出す』パターン。

②は『俺がパー出し宣言を嘘だと判断して俺がパーを出してくることを想定してチョキを出す』パターン……。

十六夜（②の時は万が一読みを外してもあいこに持ち込める……。つまりヴィクトリカの奴が出してくる手はチョキの確率が一番高い筈だ…。ならば……!!）

十六夜「……なあ、ヴィクトリカ」

ヴィクトリカ「ん？何だね？」

十六夜「お前がパーを出すなら俺はグーを出すぜ」

ヴィクトリカ「——!?!」

十六夜（さあどう出る金髪ロリ。お前の頭の中で②の作戦に考えが固まってきたところ、俺にグーを出すと言われるんだ。

もしお前が今出そうとしていた手はチョキならば、俺が宣言通りに出せば負けるのは

金髪ロリ。そこで再びお前は①のグーを出す作戦に戻るはずだ。上手くいけば勝てるし、俺が宣言通りの手を出してもあいこに持ち込めることからリスクは一番低い!

俺はそれを読んだ上でパーを出してやるよ……!!)

ヴィクトリカ(面白い——!面白いぞ逆廻十六夜!!最後の最後まで私を『退屈』させないじゃないか……!!)

十六夜「じゃあ仕切り直しだ。準備はいいなヴィクトリカ!」

ヴィクトリカ「いつでもどうぞ」

2人が再び拳を構え直す。

そばでバカボンのパパとタダクニが固唾を飲んで勝利の行方を見守っていた。

十六夜「いくぞ、じゃーん——ツ!」

「じゃんけんぽん」の「じゃん」を言い掛けたところでほんの刹那、十六夜は絶句した。無理も無い。「じゃん」の時にヴィクトリカは〈十六夜の目〉と〈最初はグー時の拳〉を結ぶ線の延長上に自分の顔が来るように顔を低くし、顔の前でチョキを見せてきたのだ。

十六夜(何の真似だ!?まさか読まれているのか!?そうだよ、さつきもコイツを侮ったことで追い詰められたばかりじゃねえか!

考えろ考えろ、今の行動には何の意図が込められている!? 「じゃんけんぼん」を言い終える前に出す手を決めなくては!

ヴィクトリカ「けーん」

十六夜（クソ、時間がない! コイツはただの引つ掛けと見た! ここは揺るがずに当初の作戦でいくぜツ!!）

十六夜&ヴィクトリカ「ぼん!」

十六夜↓パー

ヴィクトリカ↓パー

タダクニ「あ、あいこか……」

ヴィクトリカ「クス……」

十六夜「はあ……はあ……!」

十六夜（危ねえ……! まんまとチョコキという餌に釣られてグーを出していれば負けるところだった……!）

十六夜は淋漓たる量の冷や汗を垂れ流し、呼吸を整えていた。

十六夜（落ち着け……! コイツのペースに呑まれたら一巻の終わりだぞ）

ヴィクトリカ「あいこ……だね？」

十六夜「ああそうだな言わなくても分かってるよチクショウ」

7 日目④

C O 一覽

占い師

ベジータ：↓やる夫○↓バカボン父○

タダクニ：↓シャルロット○↓ヴィクトリカ○↓やる夫○↓波平狼↓破綻

靈能師

十六夜：↓のび太○↓ベジータ狼↓アンパンマン○↓波平○↓シャルロット○↓やる

夫○

狩人

投票一覽

アンパンマン：↓のび太↓ベジータ↓バカボン父

十六夜：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓やる夫

波平：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓タダクニ

のび太：↓十六夜

シャルロット：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平

孫：↓タダクニ

ベジータ：↓シャルロット↓十六夜

タダクニ：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平↓シャルロット↓やる夫

ヴィクトリカ：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓やる夫
やる夫：↓のび太 ↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓バカボン父
バカボン父：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平↓シャルロット↓やる夫

生存者

十六夜

ヴィクトリカ

バカボンのパパ

タダクニ

〈7日目・夕方／投票フェイズ〉

ヴィクトリカ「さて、2回戦目だ。始めよう」

十六夜「少し待ってろ……」

十六夜（落ち着け。ジャンケンで負ける確率なんて実質3分の1だぞ。俺は何をビビってやがるんだ……）

ヴィクトリカ「……いつまで私を待たせるつもりかね？」

十六夜「待ってつってんだろ。今お前を一撃で葬り去る必殺の一手を考案してんだよ。少しくらい待ってやがれ」

ヴィクトリカ「そうか。私もじゃあ考えてみるとしよう」

十六夜（……コイツに小細工は通用しねえ。よし、ならば伸るか反るか、コイツがまたパーを出してくることに賭けてチヨキでいつてみるか）

十六夜「よし、決めたぜ」

ヴィクトリカ「……30秒程か。長かったな」

十六夜「うるせえいくぞ。じゃんけん——！」

ヴィクトリカ「ぼん」

十六夜↓チヨキ

ヴィクトリカ↓チヨキ

十六夜「チツ……」

ヴィクトリカ「まあ、肩の力を抜きたまえよ君」

十六夜「……てめえさつきから俺の出す手を読んでやがるのか？」

ヴィクトリカ「まさか。今のチヨキは心理学的な観点から一番無難だろうと判断して繰り返し出したまだよ」

十六夜「心理学だと？」

ヴィクトリカ「そうさ。出す手をよく考えると何故か人間というものはグー以外、つまりチヨキやパアの頻出率があがるらしいのでね。

こちらが出す手を考えるフリをして、君にも考える時間を与えれば必然的に君がチヨキパーをだす確率が高くなる。それだけの話だよ」

十六夜「……そうかい。そういう聞いたことあるな。参考になったぜ金髪ロリ」

十六夜（心理学の観点は盲点だった。そうだそうだ思い出したぞ、某大学で行われた11567回の咄嗟に出したジャンケンのデータによると確かチヨキの確率は31.7%と3つの手の中で最も低かったはず…。

ここはこれに賭けよう、速攻勝負あるのみだ！金髪ロリに考える暇を与えさせねえッ

!!)

ヴィクトリカ「3回目……やるかね？」

十六夜「当たり前だいくぜ！最初はグー、ジャンケン——!!」

十六夜&ヴィクトリカ「ぽん!!」

十六夜↓パー

ヴィクトリカ↓パー

ヴィクトリカ「お」

十六夜（まだだ!!グーとパーで引き分けた場合は間髪入れずに続けて負けの手を繰り出す！）

人は無意識に偏りなく手を出そうとする為、同じ手を続けて出しづらいみたいな法則があったはずだ!!）

十六夜「あいこで——！」

ヴィクトリカ（?!?私に考える時間を与えまいと勝負を急いでいるのか？なら仕方ない……）

十六夜「シヨ!!」

十六夜↓グー

ヴィクトリカ↓パー

十六夜「なっ……!?!」

ヴィクトリカ「……この知恵の泉に挑んだのが間違いだよ、君」

十六夜「結局運が悪かったのかよ……」

ヴィクトリカ「違うな。今のは私が一枚上手だったのだよ」

十六夜「何?」

ヴィクトリカ「君は拳読というものを知っているかね?」

十六夜「拳読……?」

ヴィクトリカ「じゃんけんは基本的にグーの形から、グー、チョキ、パーを出すだろう?」

つまり相手のグーが少しでも開けば、チョキかパーを出すという事になる。

じゃんけん『ぼん』の瞬間で相手の手が少しでも開くのを認知出来れば、私はチョキを出せば少なくとも負ける事はなくなるのだよ。

今は君の手が妙に遅くて助かったがね」

十六夜「おいおいアリかよそんなの……」

ヴィクトリカ「アリだろう。無論これは一瞬判断に遅れると後出しになつてしまう諸刃の剣だがね」

パイプを片手に小さく笑みを浮かべるヴィクトリカ。

タダクニ「俺の知つてるジャンケンじゃない」

バカボン父「それでいいのだ」

十六夜「……俺の負けだな。妖狐の勝ちか。さつさと落とせ主催者」

ヴィクトリカを一瞥し、十六夜は拍手をしながら背を向けた。

『はい、——じゃんけん結果により、本日の処刑は逆廻十六夜さんに決定しました!』

十六夜が目を瞑り、床に穴が開くのを待っていると、主催者がさらに言葉を続ける。

『そしてこの瞬間に人狼の血は根絶されました!よつて村人陣営の勝利です♪』

十六夜（——は?）

パカッと床が開くが、反射的に十六夜は背後に跳躍して再びヴィクトリカの前に降り

立った。

『……おや十六夜さん？素直に落ちないのはルール違反ですよ？』

十六夜「待て主催者。——『村人陣営』の勝利つてどういふことだ？」

タダクニ「あ、そういえば……！」

ヴィクトリカ「何だ君。肝心なところで察しが悪いのだな。私は一言も自分が妖狐だなどと言った覚えはないぞ」

十六夜「何……？」

ヴィクトリカ「……まあいい。今は私の機嫌が良いからロジックを教えてあげよう。もう勝負もついたことだしな。構わんだらう主催者？」

『……うくん分かりました。特別ですよ？』

ヴィクトリカはその場にいる3人の顔を見渡すと、とつとつと事の真相を語り始めるのだった。

7日目 終極

C O 一覽

占い師

ベジータ：↓やる夫○↓バカボン父○

タダクニ：↓シャルロット○↓ヴィクトリカ○↓やる夫○↓波平狼↓破綻

靈能師

十六夜：↓のび太○↓ベジータ狼↓アンパンマン○↓波平○↓シャルロット○↓やる夫○

狩人

投票一覽

アンパンマン：↓のび太↓ベジータ↓バカボン父

十六夜：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓やる夫

波平：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓タダクニ

のび太：↓十六夜

シャルロット：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平

孫：↓タダクニ

ベジータ：↓シャルロット↓十六夜

タダクニ：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平↓シャルロット↓やる夫

ヴィクトリカ：↓のび太↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓やる夫

やる夫：↓のび太 ↓ベジータ↓アンパンマン↓波平↓シャルロット↓バカボン父

バカボン父：↓のび太↓ベジータ↓波平↓波平↓シャルロット↓やる夫

生存者

十六夜

ヴィクトリカ

バカボンのパ

タダクニ

〈7日目・夕方〉

十六夜「……言うまでもないが、お前は村人なんだよな金髪ロリ」

ヴィクトリカ「そうとも。今一度思い出してみたまえ。私は最初に言ったはずだ。何故君はベジータを真占い師として推理をしていのだ？」と

十六夜「……どういことだよ。完全にスルーしてたぜあれ」

ヴィクトリカ「わざわざ私が縷説するまでもないだろう。少しは君の頭で考えてみたらどうかね」

十六夜「…………」

十六夜（……こんな質問をしてきたということは、言外にベジータが真占い師じゃないという事だよな）

十六夜は顎に手を当て、一考する。

十六夜（確か、ベジータはやる夫とバカボンの親父に村人判定を出していた。が、ベジータを騙りであったと見て、この金髪ロリが妖狐ではないと仮定すると、次に浮かび上がる妖狐候補は……）

十六夜「……あ」

やがて十六夜が何かに気付いたように声を洩らし、ヴィクトリカは満足げに鼻を鳴らした。

ヴィクトリカ「察したようだな。簡単な話だったろ？」

十六夜「……いや。単純に襲撃されて生き延びたやる夫、アンパンマン、波平のうちの誰かということくらいしか」

ヴィクトリカ「それはそうだろう。まだ混沌（カオス）が足りていないのだから」

タダクニ「……え、え？ 話についてけないんだけど」

ヴィクトリカ「何だ。今ので大体分からなかったのか？」

タダクニ「わかんねえよ！ 言語化してくれよ！」

バカボン父「げんごかって何なのだ？」

ヴィクトリカはものすごく面倒臭そうな顔をしてため息を1つついた。

ヴィクトリカ「…分かった分かったよ。ついでだ。教えてあげよう」

ヴィクトリカ「まず、言うまでもないが真占い師及び真霊能師は、ゲーム開始後すぐに天に召された野比のび太と孫の2人だ。

2人とも2日目以前に退場し、本物の役職が早々に死亡した村で本来なら村人陣営に勝ち目は無かっただろうな」

ヴィクトリカ「2日目の朝、あまりにも面妖で認めたくはないがベジータは『気』というもので人狼の正体を暴いた。

そこで彼は占い師なら村に信用されると考え、村人にも拘わらず占い師を騙ったの

だ。

騙りゆえ、仮にやる夫が妖狐だとしても占って仕留めることはできなかったがね」

タダクニ「……あーなるほど、大体分かった……かな」

十六夜「だが……まさか村人が役職を騙るなんてそんな馬鹿げた真似……」

ヴィクトリカ「ならバカボンの親父に聞いてみるか？ これまでの護衛先を。それが最後の欠片だ」

十六夜「上等だ。おいバカボンの親父」

バカボン父「はい？」

ヴィクトリカ「君、人狼ゲームが始まってから君がこれまで護衛対象に選んだ人物を覚えているかね？」

バカボン父「もちろんなのだ！ 記憶力には自信があるのだ！」

ヴィクトリカ「言ってみたまえ」

バカボン父「ハイー！ 1日目は一番弱そうなのび太を守ったのだ。2日目はアンタじゃない方の金髪のおにやのこ！ えーとえーと」

ヴィクトリカ「…シャルロット・デユノアか」

バカボン父「そう！ シャルロットなのだ！ 3日目は喋るアンパンで、4日目は波平のオヤジ」

十六夜（……コイツはやはりランダムで護衛対象を選び、波平とアンパンマンを護衛していたっていうのか……!）

バカボン父「5日目は帰り際にヴィクトリカさんに護ってくれと頼まれたのだ!」

十六夜「頼まれた?」

ヴィクトリカ「……逆廻、君の5日目の襲撃先は私だったのだろうか? 私の読み通りだったというわけだ」

バカボン父「6日目はヘッドホンのアンタ」

十六夜「何ッ……!?!」

ヴィクトリカ「おや、点と点が繋がったじゃないか。6日目の襲撃先はやる夫、だが護衛対象は君。」

よって妖狐はやる夫だったのだな。あの時に彼を吊っておいて正解だったようだ」

バカボン父「で、最後はまたヴィクトリカに頼まれて守ったのだ!」

十六夜「おいおい。7日のうち4回も騎士の護衛を食らったってのかよ。やってらんねえわ。人狼泣かせにも程がある。そもそも頼むとか反則だぜ」

ヴィクトリカ「私はルールで指定護衛をしてはいけないなどという説明は一言も聞いていなかったからな。」

だがまあ、しかし、今日のは私にとつても大きな賭けだったよ。君が私以外を噛んで

いれば詰んでいた」

十六夜「…意外だぜ。お前が騎士の護衛先に村の命運をよくなそんな危ないヤマを張るとはな……」

……ん？とそこで1つの疑問が十六夜の頭に浮かんだ。

十六夜「……いや待てよ。1ついいか」

ヴィクトリカ「何だね」

十六夜「4日目の処刑が終わった時、やる夫が妖狐なら、あの時村に残っていたプレイヤーは人狼×2、騎士、狂人、妖狐、村人だったはずだ。

もしあの夜俺がバカボンの親父を襲撃していたらお前に勝ち目は無かったはずだぜ。それを想定していなかったのか？」

ヴィクトリカ「……馬鹿言え。君なら気づくのではないかと思っただけだよ。妖狐が生存している可能性を」

十六夜「……それは嘘だろ」

ヴィクトリカ「嘘ではないさ。現に君は騎士を囓まなかった。これでも少しは君を買ってやってるんだぞ」

十六夜「………最初から手のひらで踊らされたのは俺ってわけか」

ヤハハと十六夜は力無く笑い、その場であぐらをかいた。

ヴィクトリカ「……逆廻」

十六夜「あん？」

ヴィクトリカ「君は確かに私が今まで出会った人間の中でも1、2を争うレベルの頭の持ち主だった。

君は初めから人狼ゲームのルールやセオリーを完全に理解していて、それに加えその頭脳だ。

ルールすらままならない者もいることで心の何処かで慢心もあつたのだろうか？」

十六夜「否めねえな」

ヴィクトリカ「……それが仇になつたのだよ。君は人狼ゲームのセオリーに捕らわれすぎてバカボンの親父さんやベジータのようなド素人である不確定要素の思考を念頭に置いていなかったのだ。

君は私に、そしてこの村のみんなに負けたのだよ……」

十六夜「……さいですか」

十六夜は小さくそう呟くと、仰向けになって寝転がる。

十六夜「……参った。参ったわ。クソツ、ジャンケンでも負けて、人狼でも完膚なきまでに負けた上に落ち度を指摘されるとか格好つかねえにも程がある」

そこで2人の会話は途切れた。
頃合いを見て、主催者が放送を流す。

『終わりましたでしょうか？では十六夜さんを落としてゲームは終了とさせていただきます』

穴がパカツと開き、十六夜は闇へと吸い込まれる。

十六夜の意識はそこで途絶えた。

※※※

そして

ジャム爺「アンパンマン！どこ行ってんだい？心配したよ」

アンパン「ごめんさないジャムおじさん。ついさつきまでとっても不思議な体験をし

てたんだ」

バタ子「へく聞かせてアンパンマン！」

チーズ「アンアン」

※※※

波平「おーい帰ったぞ〜」ガラガラ

磯野家「お帰りなさ〜い」

波平「これカツオ」

カツオ「な、なにお父さん…テストならまだ…」

波平「人狼ゲームって知っどるか？」

カツオ「…え？」

※※※

のび太「ただいま……」

ママ「のび太!! 宿題ほったらかして今までどこ行ってたの!!」

のび太「ち、違うんだ話せば分かる! たっ、助けてドラえもん!!」

ドラえもん「今トイレ」

※※

シャル「うー疲れたあ……またどこかで会えないかなあ」

一夏「お、シャル。食堂にいたのか。隣いいか?」

シャル「え? う、うん。いいよ」

一夏「なんかお疲れみたいだな。どうしたんだ?」

シャル「別にー。あ、お茶持ってこようか?」

一夏「いいっていいって。たまには俺が持つてくる」ガタツ

シャル「……あ、そうだ一夏」

一夏「ん? 何だ?」

シャル「後で皆でさ、人狼ゲームやってみない?」

一夏「あー人狼か、いいな。中学の時鈴や弾とかとよくやったぜ。セシリア達ルール分かるかな」

※※

孫「ただいm……おい何やってんだジジイ共!!」

じーさん「うるせえっ! 男同士の戦いに水を差すんじやねえ!! あと一本……!!」

校長「なんの! キサマには負けんのじやいクソジジイ……!!」

孫「鼻にちくわ詰め込むことのどこが戦いだよさつさと止める老害共ツ!!」

ゲベ「ゲベゲベ」

※※

ベジータ「……」

ブルマ「あら、帰ったのなら何か言つてよ」

トランクス「おかえりなさいパパ!……あれ? 何持つてるの?」

ブルマ「え、それ本じゃない! いきなりどうしたの!?! 熱でもあるんじゃないベジータ

!!」

ベジータ「う、うるさい黙れ! たまには勉強に触れてみるのもどうかと思っただけで

……。

誤解するなよ!?!べつ別に働く気になったわけじゃないんだからな!!」

※※

タダクニ「ただいまー」

タダクニ妹「……」ゴゴゴ

タダクニ「……あ、あれどうした?」

タダクニ妹「…私のパンツは」ゴゴゴ

タダクニ「し、知らねえよ!!どうせヨシタケだろ!?!俺マジ何も知らん」

タダクニ妹「うるさいさっさと取り返して来い!!取り返すまで帰ってくんない!!」

タダクニ「そんな殺生なブゲラッ」

※※

やる夫「スレ建てるおwwwwwwwww」カタカタ

『命懸けのデスゲーム行ってきた話をする』

1：以下、名無しにかわりましてVIPがお送りします…20XX/02/04（金）
 23：30：39． 34

気がついたら知らない部屋にいて、知らねえ連中と人狼ゲームしてきたったwww
 wwwwwwwww

2：以下、名無しにかわりましてVIPがお送りします…20XX/02/04（金）
 23：31：35． 72

人狼とか懐かしいな

3：以下、名無しにかわりましてVIPがお送りしま す…20XX/02/04（金）

23：32：06． 98

とりまパンツ脱いだ

やる夫「あ、やっべ。書き貯めし忘れたお。今夜は長い夜になるおwwwwww」

※※

バカボン父「タリラリラーン、おかえりの反対なのだ！」

ママ「おかえりなさい。1人でどこ行ってたの？」

バカボン父「皆で遊んできたのだ！よくわからないけど面白かったのだ！」

バカボン「えーパパずるい！僕も行きたかったよー!!」

ママ「あら、ハジメちゃん何を読んでいるの？」

ハジメ「最近人狼ゲームっていうルールプレイゲームに興味があるの。だからそのゲームの理論を勉強してるんだ」

バカボン父「人狼？どこかで聞いたことあるなあ」

※※

ヴィクトリカ「……」

ヴィクトリカ「…また退屈になってしまった」

一弥「あ！ヴィクトリカここにいたんだ！いきなり消えたから探したよ！」

ヴィクトリカ「騒々しいやつだな。別に私はどこにも行かんよ」

一弥「そんなことより日本からまた新しいお菓子が届いたんだ！食べてみてよ!!」

ヴィクトリカ「む、なんだねこの木材は」

一弥「ふ菓子っていうんだよ。食べてごらん」

※※

——「ノーネーム」本拠・貯水池前の憩いの小屋。

十六夜「……ん」パチリ

十六夜「……寝てたみたいだな。ふあゝあ」

黒ウサギ「あ、十六夜さんお目覚めになりましたね。今ちようどお茶を淹れたところですが一緒にどうですか？」

十六夜「ああ。もらう」

黒ウサギ「あちち……どうぞ。熱いので気を付けてください」

十六夜「センキュ。……で、黒ウサギ」

黒ウサギ「な、何でしょう？」

十六夜「何が目的で俺にギフトゲームを仕掛けたんだ？」

黒ウサギ「ギクツ」

黒ウサギ「あ、あはは……。やっぱりバレてたのですか。流石十六夜さんですね……」

十六夜「お前の特徴的な話し方はボイスチェンジャーにかけても分かるだろ普通」

黒ウサギ「あやや、それは痛恨のミスです」

十六夜「で、一体どんな見だったんだオイ」

黒ウサギ「……こんなこと言えば怒るかもしれないですけど」

十六夜「ん」

黒ウサギ「十六夜さんを試させていただきました」

十六夜「……俺を試した？」

黒ウサギ「はい。確かにノーネームは十六夜さん達が来てから物凄く成長しました。驚異的と言っても過言ではない程にです」

黒ウサギ「しかしコミユニティが強力になれば、それだけ敵対するコミユニティのレベルも上がります。今後は難易度の高いギフトゲームも増えてくることでしょう」

黒ウサギ「戦闘力の面で言えば十六夜さんはどんなに少なく見積もっても5桁程度の相手になら間違いなく勝てる実力を持っています。なので当面力を競うギフトゲームで負けることは無いと思いますが……」

十六夜「……知力はまだまだ未熟って言いたいのか？」

黒ウサギ「それを確かめるために此度のギフトゲームを仕掛けさせていただきました……」

本当に申し訳ありません！心よりお詫びします！」

十六夜「いや別にそういうことなら構わねえが……。

あのヴィクトリカとかいう野郎にはいいように一杯食わされちゃったからな。黒ウサギ的には不合格だろこれ」

黒ウサギ「いえ！黒ウサギ的には十分合格点の結果でした！」

十六夜「負けたのにか？」

黒ウサギ「彼女……ヴィクトリカ・ド・ブロワは『知恵の泉』と呼ばれる全知の一端を担う恩恵の保持者です」

十六夜「……なるほどな。やっぱ恩恵持ちだったのかアイツ。うちのコミュニティに欲しいところだぜ」

黒ウサギ「そんな彼女をあそこまで追い詰めたのです。失礼なことを申し上げますが十六夜さんの頭の回転力は私の想像を遥かに超えています」

十六夜「そりや光栄だね」

黒ウサギ「……それにしてもちよつと意外です」

十六夜「何がだよ」

黒ウサギ「いえ、こんな試すような真似をしててつきり怒るかと思ってきました。パンチの2、3発は覚悟していたのですが」

十六夜「俺はどんな風にお前の目に写ってんだよ。確かに試されたのは少し気に入ら

ねえが……結構愉しかったぜ？

素敵なギフトゲームをありがとよ黒ウサギ。

またどっかでやらせてくれよ人狼ゲーム」

黒ウサギ「そ、そうですか！了解なのですよ！」

ノーネームのとある日常でしたとき。

V S ぼっち&超高校級の希望

第2村目 プロローグ&クロスキャラ顔合わせ

人狼ゲームの一件以来、黒ウサギのノーネームではそれはもう色々なことがあった。

南の「アンダーウッド」で巨人族と戦い――

囚われたレティシアを解放すべく巨龍を打ち倒し――

収穫祭で行われた『ヒツポカンプの騎手』では優勝を果たすなどなど。

その後は安穏な日々が続き、ヘッドホンを失って髪の毛が立っている十六夜は退屈し
のぎに分厚い本を数冊持つて貯水池前の小屋へと赴いていた。

※※※

（2時間後）

十六夜「……………暇だ」

持ってきたの本を読破してしまい、手持ち無沙汰になる十六夜。試しに目を瞑ってみるとすぐさま緩やかな睡魔が襲ってくる。

このまま寝れそうだ。

十六夜（快晴、春風、水流の音。絶好の昼寝日和つか……。たまには寝てみるか）
十六夜が手元の本を横に置いて暖かな微睡みに身を委ねようとする、本拠に続く小道から賑やかな声がしてきた。

黒ウサギ「十六夜さーん！十六夜さーん！！」

ウサ耳を跳ねさせて本拠から猛ダッシュしてきた黒ウサギが、貯水池前の小屋で急停止。

十六夜の姿を見つけると、ひとつ跳びで十六夜に迫った。

黒ウサギ「十六夜さん十六夜さん、久々に」

十六夜「五月蠅い」

昼寝を邪魔された十六夜が不機嫌そうに本を投げつけ、黒ウサギが3回転半して吹き飛ぶ。

黒ウサギ「も、申し訳ありません！ちよつと取り乱しちゃって……」

額を真つ赤に腫れさせてウサ耳がシュンとなる黒ウサギ。

十六夜「……それで？人の安らかな快眠邪魔したんだから、それ相応のプレゼンがあるんだよね？」

黒ウサギ「い、YES！最近これといったイベントなども無く退屈していらつしやるだろうとこの黒ウサギ、久方ぶりに人狼ゲームのギフトゲームを十六夜さんに挑んでみようかと思った次第なのですよっ！」

『人狼ゲーム』というワードを聞いて十六夜の表情が打って変わって愉しそうに目を輝かせる。

十六夜「……合格だ。暇すぎて死にそうだったからな」

獣のように身体をしならせて飛び起き、拳をポキポキ鳴らす十六夜。

十六夜「で、これは一応俺と黒ウサギの勝負なわけだ。今回は何かチップを賭けようぜ」

黒ウサギ「いいですよ。どうします？」

うーんと2人はしばし思案に更ける。

十六夜「……いつかの時と同じ、1回分の首輪でどうだ？」

黒ウサギ「了解なのです。ちょっと待ってください。契約書類に書き足しますので……」。はい、出来ました！ではいきますよ十六夜さん!!」

黒ウサギが羊皮紙を十六夜の前に投げた。

『ギフトゲーム名』“Are You a Werewolf?”

プレイヤー一覧 逆廻十六夜

プレイヤー勝利条件 人狼ゲームで勝利する。

プレイヤー敗北条件 人狼ゲームで敗北、またはルールに反する行為を犯す、及び勝利条件を満たせなくなった場合。

ゲームマスター勝利条件 プレイヤーが敗北条件を満たした場合。

ゲームマスター敗北条件 プレイヤーが勝利条件を満たした場合。

敗者は勝者の命令を1度だけ強制される。

宣誓：上記のルールに則り、『黒ウサギ』・『逆廻十六夜』の両

名はギフトゲームを行います。』

契約書類を読み終えた途端に十六夜は抗いようのない眠気に襲われた。そのまま地面に座り込むと前回同様、そこで十六夜の意識は跡絶えてしまった。

※※※

ふと意識が戻り、静かに重い瞼を引つ張って目を開ける十六夜。

首にかけられている『逆廻十六夜』と書かれた名札を確認し、十六夜は辺りを見回してみる。

連れてこられた場所は前回と同じ何も無い白い部屋だ。

円を囲むように配置された椅子には前回の面子とは異なったプレイヤー達が座っている。

誰もが自分の置かれている状況を飲み込めていないようだ。

十六夜（9、10、11、12……。人数はこの前から1人増えてるみたいだな）

十六夜がその場にいる者たちの人数を数え終わると、天井からボイスチェンジャーで加工された黒ウサギのアナウンスが流れてくる。

『……はい。これで全員起きましたね。おはようございます皆さん』

その場にいる全員が顔を上げた。

『皆さんにはこれからとあるゲームをしてもらいます。拒否権はありません』

ふなっしー「どういことなっしー!?というかここはどこなっしー!!」ナシジルブツ
シャー

セシリア「いきなり連れてこられたと思えばわたくし達にゲームをしるですって?ふざけるのも大概になさい!」

お嬢様言葉でアナウンスに反駁する少女を見て、十六夜はおつと小さく反応する。

十六夜（シャルロットと同じ制服……。確かIS学園とか言うんだっけか?）

『先に申し上げておきます。今皆さんがいる場で起きる出来事は全て中継されていきます。もし不審な真似をした場合には予めこちらの方で預からせて頂いたあなた方の大切な人の身の安全は保証致しません』

「[[[[[?]]]]」

十六夜（テンプレを読み上げてんのか黒ウサギの奴。芸がねえな）

言ってることが前回と全く同じであることに十六夜は肩をすくめた。

バマミ「……それで、私達に何をさせる気なのかしら?」

『理解が早いようで助かります。今から説明するのでよく聞いてくださいね』

その場にいる12人全員が天井からのアナウンスに耳を傾けた。

『…………これから皆様には人狼ゲームをしてもらいます』

苗木「じ、人狼ゲームだって!？」

ふなっしー「人狼なっしー!!」

イカ娘「人狼やるでゲソ?」

ラオウ「このラオウそのような遊戯は知らぬ」

エレン（くだらねえ!俺はこんな茶番に付き合ってる暇はないんだ!こうしている間にも巨人が!!）

ゾーマ「ほう?人狼……とな」

バ MMI 「人狼……?聞いたことはあるけれど……」

アキラ先輩「マジかー。人狼とか超懐かしいじゃんよ」

サトシ「人狼ゲームって何なんだよ!俺そんなの知らないぞ!!」

セシリア（人狼……。そういえば何か月か前にシャルロットさんに教えてもらった後皆さんとよくやりましたわね。ルールを知ってるだけわたくしに分があるのでしようか?）

八幡「わーマジかよ。ぼっちだからネット人狼しかやったことねえよ」

十六夜（……コイツらの反応をみる限り、経験のある奴は5く6人つてとこか）
頃合いを見て、アナウンス……もとい黒ウサギが言葉を続ける。

『人狼ゲーム自体知らない方も多いでしょう。なのでルールを説明いたしますね』

『ざっくり言えばプレイヤーは人狼、村人、鬼の三つの陣営に分かれてゲームを進めていきます』

十六夜（……鬼？）

知識に無い陣営の名前が出て、ぴくつと十六夜が反応する。

十六夜だけでなく他にも何人か首を傾げた者がいた。

『人狼陣営は正体を見破られずに村人を皆殺しにすれば勝ち。』

村人陣営は人狼を炙り出し、やはり皆殺しにすれば勝ち。

そして鬼陣営は村人の殲滅かつ自分自身と人狼の生存が勝利条件です』

苗木「ちよつと待ってよ！」

『苗木 誠』と書かれた名札をつけた少年が立ち上がってアナウンスに向かって声を張る。

苗木「鬼陣営って初めて聞いたけど村人の殲滅が勝利条件に含まれていること以外に妖狐と違うところとかあるの!？」

十六夜（お、ちようど俺も気になった）

『それは後々分かりますので席にお座りください苗木さん。今はルール説明中でございます』

苗木「う……ご、ごめんなさい……」

『こほん……。えーでは取り直して。まずこの部屋には12人のプレイヤーがいますね？初め人狼陣営3人、村人陣営8人、鬼陣営1人に分かれてもらいます。』

『ゲームはまず朝フェイズに話し合いをして、誰が人狼かを議論してもらいます』

『次に夕方フェイズ。全員で人狼だと疑わしき人物に投票し、最も投票数が多かった人物を「吊り」という形で処刑してゲームから除外します。』

処刑された人物は別室に移動してもらいます』

『そして夜フェイズでは皆さんは個室に移動してもらいますが、人狼陣営の方のみは部屋を出て話し合いをし、誰か一人を「噛む」ことでゲームから除外させることができます。』

噛まれた人物も別室での待機となります』

『朝フェイズが30分、夕方フェイズが5分、夜フェイズが25分のサイクルで毎日誰かを処刑し、誰かを噛むことで人数を減らしていき、決着がつくまで繰り返してもらいます』

十六夜（見事なテンプレだ）

『そして皆さんにビッグニュースでございます！此度、このゲームにおいて何の恩恵も持たない村人は存在しません!!』

十六夜「……へえ？」

ラオウ「能力とは何なのだ？」

『先ほど申し上げた通りの配役ですと、村人陣営はかなり不利なのがお分かりいただけますか?』

ラオウ「う、うぬ」

『なので村人陣営には人狼に対抗できる「恩恵」を持つ役職が存在します。今回、皆さんには村人以外の何かしらの役職が与えられます』

アキラ先輩「まーじかー」

『まず登場する役職ですが、今回は

・賢狼

・大狼

・サイコキラー

・占い師

・霊能師

・無意識

・タフガイ

・境界師

・花売り

・天人

・騎士

・鬼

の以上12種類でございます』

十六夜「……賢狼に大狼だと？聞いたことねえぞ」

セシリア「天人や境界師というのも耳にしたことがありますわ」

イカ娘「マイナーな役職多すぎないカ？」

アキラ先輩「つか俺半分知らねえべ（笑）」

ゾーマ「まあ良かろう、手慰め程度に弄んでやるわ愚民共」

『この後は0日目夜フェイズということで皆さんには個室で待機してもらいます。部屋に置いてある説明書にルールや役職の細かい説明など載っておりますのでそちらを
参照ください』

※※※

参加者

逆廻 十六夜

(問題児たちが異世界から来るそうですよ?)

セシリア・オルコット

(インフィニットストラトス)

エレン・イエーガー

(進撃の巨人)

ラオウ

(北斗の拳)

大魔王ゾーマ

(ドラゴンクエストIII そして伝説へ…)

比企谷 八幡

(やはり俺の青春ラブコメは間違っている。)

苗木 誠

(ダンガンロンパ)

アキラ先輩

(紙兎ロペ)

サトシ

(ポケットモンスター)

イカ娘

(侵略?!イカ娘!)

巴 マミ

(魔法少女まどか☆マギカ)

ふなっしー

(千葉県船橋市非公認のゆるキャラ)

計12名

登場役職

賢狼:

人狼陣営。占われると狼判定。

第三勢力(ここでは鬼)の生存を毎朝知ることができ、

また、仲間の人狼が誰であるかを知ることができ、毎晩誰か一人を襲うことができる。

大狼：

人狼陣営。占われると村人判定を受けるのが特徴。

人狼が誰であるかを知ることができ、毎晩誰か一人を襲うことができる。

サイコキラー：

人狼陣営。占われると村人判定。

夜フェイズ時、自分を夜行動の対象にしてきた者を殺害し、その者は翌朝死体となつて発見される。人狼も例外ではない。

占い師：

村人陣営。占われると村人判定。

毎晩誰か一人を占い、その者が人狼であるかそうでないかを知ることができる。

霊能師：

村人陣営。占われると村人判定。

前日に処刑された者が人狼であるかそうでないかを知ることができる。

無意識：

村人陣営。占われると村人判定。

タフガイ：

村人陣営。占われると村人判定。

人狼に襲撃されてもすぐには死亡せず、その噛まれた次の日の朝に死体となって発見される。

境界師：

村人陣営。占われると村人判定。

昨晚自分を何らかの夜行動の対象にした人数を知ることができる。

花売り：

村人陣営。占われると村人判定。

毎晩誰か1人を選択し、その対象になった者は次の日の投票数が+1になる。

天人：

村人陣営。占われると村人判定。

二日目にいきなり死亡するが、次のうちのどれか一つの条件を満たせば、その日の朝に復活する。

1. 「人外勝利前日」である。

2. 5日目である。

3. 村の人口が半分以下になった。

4. 生存している人狼が一人になった。

騎士：

村人陣営。占われると村人判定。

毎晩誰か一人を人狼の襲撃から護衛することができる。ただし自分を守ることができない。

鬼：

第三勢力。占われると村人判定。

人狼からの襲撃で死なない。

勝利条件は村人陣営の殲滅及び自身と人狼の生存。

1 日目

く生存者く

逆廻 十六夜

セシリア・オルコット

エレン・イエーガー

ラオウ

大魔王ゾーマ

比企谷 八幡

苗木 誠

アキラ先輩

サトシ

イカ娘

巴 マミ

ふなっしー

く役職確認く

賢狼：

人狼陣営。占われると狼判定。

第三勢力（ここでは鬼）の生存を毎朝知ることができる。

また、仲間の人狼が誰であるかを知ることができ、毎晩誰か一人を襲うことができる。

大狼：

人狼陣営。占われると村人判定を受けるのが特徴。

人狼が誰であるかを知ることができ、毎晩誰か一人を襲うことができる。

サイコキラー：

人狼陣営。占われると村人判定。

夜フェイズ時、自分を夜行動の対象にしてきた者を殺害し、その者は翌朝死体となつ

て発見される。人狼も例外ではない。

占い師：

村人陣営。占われると村人判定。

毎晩誰か一人を占い、その者が人狼であるかそうでないかを知ることができる。

霊能師：

村人陣営。占われると村人判定。

前日に処刑された者が人狼であるかそうでないかを知ることができる。

花売り：

村人陣営。占われると村人判定。

毎晩誰か1人を選択し、その対象になった者は次の日の投票数が+1になる

タフガイ：

村人陣営。占われると村人判定。

人狼に襲撃されてもすぐには死亡せず、その噛まれた次の日の朝に死体となって発見される。

境界師：

村人陣営。占われると村人判定。

昨晚自分を何らかの夜行動の対象にした人数を知ることができる。

無意識：

村人陣営。占われると村人判定。

人狼に自身の役職を知られる。

天人：

村人陣営。占われると村人判定。

二日目にいきなり死亡するが、次のうちのどれか一つの条件を満たせば、その日の朝

に復活する。

1. 「人外勝利前日」である。
2. 5 日目である。
3. 村の人口が半分以下になった。
4. 生存している人狼が一人になった。

騎士：

村人陣営。占われると村人判定。

毎晩誰か一人を人狼の襲撃から護衛することができる。ただし自分を守ることはできない。

鬼：

第三勢力。占われると村人判定。

人狼からの襲撃で死なない。

勝利条件は村人陣営の殲滅及び自身と人狼の生存。

〓0日目・夜〓

各々が適当に個室を選び、中に入って自分の役職を確認する。

十六夜（さて、今回は何かな）

十六夜は個室に入るとすぐに、隅に置かれている机の上のカードをめくって見えた。すると……

【あなたの役職は 無意識（村人陣営）です】

十六夜（無意識？知らねえ役職だな。どんなのだ？）

十六夜がさらにカードを読み進める。

【村人陣営であり、占い師からは村人判定を受ける。

無意識のうちに外を徘徊することから、人狼陣営はあなたを『無意識』だと認識することができると】

読み終わった途端、十六夜は忌々しそうに舌打ちした。

十六夜（……これ言い換えれば俺が何の能力も持っていないことが確定であるのが人狼達に把握されるってわけか。

つまり人狼サイドは潜伏してる他の役職を絞りやすくなる。

マジでクソつまんねえ役職じゃねえかクソが）

十六夜がカードを手を取ったまま棒立ちしていると、再び館内にアナウンスが流れる。

『人狼の方は部屋を出て集合してください。他の役職の方は部屋から出てはいけません。』

人狼陣営の顔合わせの時間だ。

この時間帯、人狼以外のプレイヤー達にとってはかなり暇な時間となる。

暇を持て余した十六夜は、退屈しのぎに他の役職の能力説明を読んで時間を潰すのだった。

※※※

〜1日目・朝〜

『朝時間です。では皆さん、大広間で話し合いをしてください』

アキラ「うほ、マジかー。俺一番乗りじゃねえかよー」

イカ娘「おはようでゲソ」

ゾーマ「くはは……」

ふなっしー「梨汁ぶっしやー」

エレン「とつとと人狼を駆逐して終わらせてやる……!!」

セシリア「おはようございます……と言えはいんですの?」

巴マミ「始まったわね。右も左も分からないから誰か進行してくれると嬉しいのだけ
れど」

ラオウ「うぬ」

八幡「明らか人間じゃねえのがナチュラルに混じってるけどつつこんじゃいけない方
向なのかこれ」

苗木「お、おはよう皆……」

十六夜「うーす」

12人の参加者が大広間に集まり、円形に並べられた椅子に座る。

一同「……………」

苗木「え、えーと。何を話し合えばいいのかな」

バمام「この中で人狼ゲームのルールを知ってる人は何人いるの？手を挙げてくれな
いかしら」

مامの発言に十六夜、イカ娘、八幡、アキラ、苗木、セシリア、ふなっしーが手を挙げた。

バمام「あら、こんなにいるのね。こういうとき初日は何を議論すればいいの？」

セシリア「…………普通は占い師の方が自分の役職を明かして議論を始めるものなの
が…………」

アキラ「そうそう。騎士もいるんだからとりあえず出てこいよ占い師」

バمام「…………そうなの。じゃあ私占い師よ」

エレン「待て。俺が占い師だ」

苗木「…………え？」

サトシ「あれ、占い師って1人じゃなかったっけ？」

ゾーマ「クス…………どちらかが我々を欺こうとしているというだけの話であろう」

مام「あら、占い師を騙るなんて考えたわねエレン君？」

エレン「皆騙されんな!!俺が本物の占い師だ!!狼野郎は黙ってるッ!!」

八幡「喧嘩してねえで占い結果言おうぜ」

十六夜「そうだ。とりあえずエレンお前は落ち着けよ」

エレン「……昨日はラオウを占った。村人だった。占った理由はない。右隣にいたから、というだけだ」

バمام「私は最初に何となく目についたふなっしーを占ったわ。判定は村人よ」

占い師COまとめ

バمام：ふなっしー村

エレン：ラオウ村

イカ娘「どっちも白でゲソか……」

※白〓占い判定が村人であること。

十六夜（：今回占われても死亡せず、なおかつ占われても村人判定を受ける鬼は役職を騙らずに潜伏している筈。同じく大狼も騙らない方が吊られるリスクは低い。ならば内訳は賢狼&本物またはサイキキラー&本物が濃厚か……）

十六夜「参ったなこりゃ」

ラオウ「ぬ、何がだ？」

十六夜「このゲームには大狼とかいうチートがいるお陰で占い師の仕事は賢狼を見つ

けるだけに限られる」

苗木「大狼とかつてどうやって見つければいいんだろう……」

セシリア「とりあえず、今日の処刑はどうしますの？」

サトシ「どつちかが偽物の占い師なんでしょ？ じゃあどつちも処刑すればいいんじゃないのかな」

ゾーマ「クク……たとえ人外を一人しか見つけれぬ役職とはいえ、そこで早合点して早急に占い師を吊るのは得策とは思えぬぞ小僧」

サトシ「え」

八幡「てか早々に占い師を吊りたがるとか賢狼っぽいなお前」

サトシ「え、え！ ち、違うよ！ 俺はそんなじゃない!!」

ふなっしー「何でそこで必死になるなっしー？ サトシ君はルール知らないんだからー、よく考えずに発言しちゃいましたーとか落ち着いて弁解すれば怪しくなかったな
しよ」

サトシ「お、俺は騎士だ！ 俺を処刑したらまずいんじゃないのか!? 皆!!」

アキラ「お、おめーが騎士だったん？」

サトシ「そうだよ。信じてくれよ！」

セシリア「でも、たとえばあなたが騎士であったとしてもそれを軽々しく口にするのは

良くないですわ」

サトシ「え、何で…ですか？」

八幡「お前が本当に騎士だとしたら今日お前が処刑されれば人狼達はこの村に騎士がいなくなつたと把握でき、なおかつ鬼も見つけやすくなる」

十六夜「やたらでしゃばるじゃねえか八幡？ 案外お前が白狼だったりしてな」

八幡「なんなら俺を吊つてみるか？ 吊り回数無駄にすることになるが」

エレン「俺としては早急に偽物の巴マミを早急にぶつ殺してやりたいところだがな」

巴マミ「その言葉そっくりそのまま返すわよ」

イカ娘「ふざけてる場合じゃないでゲソ」

十六夜「つつても初日は判断材料もねえ。今日はグレランでいいと思うぜ」

※グレランⅡ 占い師から村人判定を受けていないグレーな立ち位置のプレイヤーをランダムで吊ること。

アキラ「さんせー。なんだかんだ本物の騎士が名乗り上げねーの見るにサトシ本物っぽいわ」

イカ娘「あ、忘れてたゲソ。私天人だから明日死ぬでゲソ。無駄な投票が私に来ないように先に言っておいた方がいいじゃないかと思つたでゲソよ」

ラオウ「うぬ。把握した」

ゾーマ「クス……」

八幡「……」

『朝時間終了です。これから夕方の投票フェイズに入ります』

※※※

く1日目・夕方く

投票結果

十六夜↓ふなっしー

セシリア↓ゾーマ

エレン↓バマミ

ラオウ↓ゾーマ

ゾーマ↓八幡

八幡↓アキラ

苗木↓ふなっしー

アキラ↓ゾーマ

サトシ↓セシリア

イカ娘↓ゾーマ

バマミ↓エレン

ふなっしー↓苗木

ゾーマ：5票

ふなっしー：2票

八幡：1票

苗木：1票

セシリア：1票

アキラ：1票

バマミ：1票

エレン：1票

ゾーマ「なぬ……?」

バマミ「あら、票数が13? 1票多いわ」

セシリア「部屋で説明を読んでいませんでしたの? 花売りがいると誰か1人だけ投票

数が2票になりますわ」

バمامィ「なるほど。ありがとね」

セシリア「いえいえ」

『投票により今夜の処刑はゾーマさんに決定しました。ゾーマさんにはこのゲームが終わるまで別室に待機してもらいます。ゾーマさん遺言をどうぞ』

ゾーマ「……光ある限り闇もまたある……。わしには見えるのだ。再び何者が闇から現れよう……。だがその時はお前達は年老いて生きてはいまい。わははは……っ！」

ガコンとゾーマの足元に穴が開き、ゾーマは虚空へと吸い込まれていった。

八幡「何あのイケメン」

ふなっしー「処刑されたときの台詞考えておかなきゃいけないしな」

『それでは1日目夜時間となります。皆さんは各自自分の部屋へとお戻りください』

2日目

く生存者く

逆廻 十六夜

セシリア・オルコット

エレン・イエーガー

ラオウ

比企谷 八幡

苗木 誠

アキラ先輩

サトシ

イカ娘

巴 マミ

ふなっしー

投票先

十六夜↓ふなっしー

セシリア↓ゾーマ

エレン↓巴マミ

ラオウ↓ゾーマ

ゾーマ↓八幡

八幡↓アキラ

苗木↓ふなっしー

アキラ↓ゾーマ

サトシ↓セシリア

イカ娘↓ゾーマ

巴マミ↓エレン

ふなっしー↓苗木

占い師CO

巴マミ：ふなっしー村

エレン：ラオウ村

〈1日目・夜〉

十六夜（……何となくではあるがバママミが騙り占い師っぽい気がするな）

十六夜（昨日の投票時間後のバママミが発言した花売りの能力を分かっていたいなかったという旨の言葉……）。

夜時間25分間に各役職の能力を確認していなかったというのはどうもおかしい。

アイツは人狼のルールを最初知らなかったのだから覚えようとしていないのはなおさら不自然だ）

十六夜（人狼だったから人狼同士の対話に時間を費やし、役職を覚える暇がなかったと言えば一応説明はつく）

十六夜（……まあ、こんなのは推論に過ぎねえしそれだけで決め打つのはナンセンスだな）

十六夜は部屋に備え付けられたシングルソファに腰掛け、天井を見上げる。

十六夜（……とりあえず今日の襲撃先にならないことを願うとしますか）

十六夜（普通ならば人狼から何の役職も持たないというのがバレてる俺を積極的に襲撃する事はないはずだが、今回はサイキキラーがいやがる。）

サイコキラーの反撃を恐れて安牌である俺を噛む可能性も十分に高いわけだからな）十六夜（そういうわけで人狼共に俺を生かしておいては危険だと思わせてもいけない。時が来るまでは大人しく静観してねえといけねえんだな……）

十六夜「……チツ、マジでつまんねえ役職を引いちまったもんだ」

吐き捨てるように呟いて足を組み直し、十六夜は静かに朝時間を待った。

※※※

く2日目・朝く

『朝時間になりました。サトシさんとイカ娘さんが無惨な姿で発見されました。大広間で話し合いをしてください』

ふなっしー「おはようなっしー!!」ナシジルブツシャー

ラオウ「うむ」

十六夜「ハッ、やっぱサトシが噛まれたか。騎士濃厚だな」

八幡「全く…残念騎士にも程がある」

セシリア「そんな屍を蹴るような言動は慎んだ方がいいですわよ八幡さん」

八幡「へいへい」

アキラ「1日で随分減っちゃってんじやんよー」ケラケラ

苗木「れ、霊能師COするよ！サトシクンは村人だったんだ！」

霊能COまとめ

苗木：サトシ村

ラオウ「ぬ、COとは何なのだ？」

ふなっしー「自分の役職をカミングアウトすることなっしー」

ラオウ「なるほど。把握した」

八幡「……霊能の対抗はいねえみたいだな。苗木は真と見ていいか」

そこでエレンが勢いよく立ち上がってバマミを指差した。

エレン「聞け！昨日はバマミを占った!!狼判定だ!!つまりコイツが賢狼に違いねえ!!

今日殺すぞ!!」

バマミ「彼の言うことを信じては駄目よ皆。私はセシリアさんを占ったわ。結果は村人だったけど」

十六夜「さて、今日はどうしたものか」

セシリア「分かりましたわ皆さん!!」

セシリアが手を叩いて立ち上がる。

八幡「どうした」

セシリア「境界師COしますわ！昨日の夜に私を対象とした行動が1つありました！つまり巴マミさんは本当に私を占ったということになりますわ！！騙りはエレンさんです！！」

エレン「あアツ!!」

巴マミ「……境界師ってそういう役回りだったのね。お陰で私が真だと証明されたけどね？人外さん？」

ちらつと巴マミがエレンを見る。

慌ててエレンが何かを言おうとしたとき、今度はアキラが小さな手をあげた。

アキラ「はいはいちよい待ちちよい待ちー」

セシリア「……はい？」

エレン「な、何だ！」

アキラ「花売りCO！俺が昨夜花を売ったのはセシリアだべ！」

巴マミ「——ッ!!」

セシリア「何ですって？」

十六夜「……へえ？」

エレン「？」

ラオウ「……つまり、どういう事なのだ？」

セシリア「……昨夜私を行動対象にしたのは1人。つまり、アキラさんが本物の花売りだとしてバمامミさんも本物の占い師だとするなら私への行動対象は2人にならないと辻褄が合いませんわ」

アキラ「つまりバمامミは昨晚何も占ってねーってことだべ。そりやそうだわ騙りなんだもんな。人外おつゝ（へーへ）v」

エレン「ざまあ見やがれ糞狼が!!」

バمامミ「ま、待つて皆！エレンとアキラ君がグルなのだとしたら!?アキラ君が騙り花売りっていう可能性だつて」

苗木「それは違うよ!!」

バمامミ「!?」

苗木「花売りは占い師や霊能師と違って、騙ったとしても後日での投票結果で騙りがすぐバレるんだ。そんなリスクを犯してまで騙る人なんていないよ……。だからアキラくんは花売りなのは間違いないんだ!!」

バمامミ「そ、そんな」

エレン「だから言っただろうが!!俺が本物の占い師だつて……」

ふなっしー「ちよつと待つなっしー!!占い師COなっしー!!」

一同「「!?」」

ふなっしー「昨日は様子を見て潜伏していたなっしー!昨日占ったのは十六夜君で村人だったなっしー」

十六夜「……で?」

ふなっしー「そして今日!ふなっしーもママちゃんを占ったなしよ!!なんと狼だったなし!!賢狼はバママミなし!!」

バママミ「……え?」

占い師COまとめ

バママミ:ふなっしー 村↓セシリア 村

エレン:ラオウ 村↓バママミ 狼

ふなっしー:十六夜 村↓バママミ 狼

十六夜(このタイミングで占い師CO?)

八幡(……?)

ふなっしー「というわけでエレン君はもちろんのことママさんは騙り確定なしよ。早急に吊るなし」

バママミ「そ、そんなの」

ラオウ「占い結果が破綻し、さらには2人の占い師に狼判定を出されたとなるとな……」

セシリア「流石に言い逃れはできませんわね。バマミさん。チェックメイトですわ」

セシリアが指で鉄砲の形を作ってパーンと打つジエスチャーをとる。

アキラ「何だし今の超かけー笑笑」

バマミ「……orz」

『朝時間終了です。これから夕方の投票フェイズに入ります』

※※※

く2日目・夕方く

投票結果

十六夜↓バマミ

セシリア↓バマミ

エレン↓バマミ

ラオウ↓バマミ

笑いをやめ、安らかな顔でそう呟くと同時にガコンと床に穴が開き、バママミは暗闇へと落ちていった。

『2日目終了です。これから夜時間になります。各自自分の部屋へお戻りください』

3 日目①

く生存者く

逆廻 十六夜

セシリア・オルコット

エレン・イエーガー

ラオウ

比企谷 八幡

苗木 誠

アキラ先輩

ふなつしー

投票先

十六夜↓ふなつしー↓巴マミ

セシリア↓ゾーマ↓巴マミ

エレン↓巴マミ↓巴マミ

ラオウ↓ゾーマ↓バマミ

ゾーマ↓八幡

八幡↓アキラ↓バマミ

苗木↓ふなっしー↓バマミ

アキラ↓ゾーマ↓バマミ

サトシ↓セシリア

イカ娘↓ゾーマ

バマミ↓エレン↓エレン

ふなっしー↓苗木↓バマミ

占い師CO

バマミ：ふなっしー村↓セシリア村

エレン：ラオウ村↓バマミ狼

ふなっしー：十六夜村↓バマミ狼

霊能師CO

苗木：サトシ村

花売りCO

アキラ

境界師CO

セシリア

〈2日目・夜／十六夜の個室〉

十六夜（賢狼が吊られた今、もはや占い師の存在価値は無に等しい。つーわけで2人も吊るってのもアリな気はするが……）

——それでは愉しくない。

ぶんぶんと頭を振ってぽつと浮かんだ考えを打ち消す十六夜。

人狼ゲームの醍醐味はやはり相手の嘘を見抜いて論破し、赤裸々に役職を明かさせてから追い詰めることだ。

こんな面白いゲームの命運をカミサマに任せるなんぞどうかしている。

そして十六夜は膝に肘を立てて再び思考に耽り始めた。

十六夜（……バママミが処刑される寸前にまだこの村に鬼が生存していることを自白し

ている。鬼の勝利条件は狼と自身の生存。仮にバマミの発言がハツタリであったとしても用心するに越したことはない。

どちらにしろ鬼はリスクの高い騙りはしてこないだろうから疑い先はラオウか八幡に絞られる)

十六夜(で、残り2人の占い師の内訳はやはりサイコキラー、真占い師になるはずだ)
十六夜(ふなっしーの野郎は初日の占い師候補であったバマミに村人判定を出されてから占い師COをしている。

仮に:もし仮にふなっしーの奴が白狼であったとしてもだ。占い師から村人判定を受けたならばわざわざ占い師COなぞしなくても潜伏していた方が有利に決まっている。よってふなっしーが人狼の線は消える)

十六夜(逆にサイコキラーであるならば2日目までCOを待たねえはずだ。

人狼陣営はサイコキラーが誰であるかを把握していない。下手すれば人狼を殺しかねないサイコキラーは己の存在を知らせるためにも1日目に占い師COして然るべき)

十六夜(以上の点を総括して考えれば真占い師は……)

十六夜「……ふなっしーが濃厚……だろうか」

十六夜は自問のようにぼそつと呟いた。

※※※

く同時刻・苗木の個室く

苗木（ボクにはどうもふなっしーが偽物に見えるんだよなあ……）

苗木（本物の占い師なら1日目にエレンクンや巴サンといった騙り占い師の候補が出てきた時点で対抗してCOしなきゃいけないはずなんだ……）

苗木（でなきゃ次の日に占い師COしても皆から信用を勝ち取るのは難しくなってしまう）

苗木（……仮にふなっしーが本物だったとしたら何で2日目にCOをしたんだろう？）

苗木（あ、いや。襲撃を恐れて1日目は潜伏し、賢狼を見つけた2日目に占い師をCOした、とも考えられなくは無いか

……）

苗木（でも何だろう。この違和感は……）

苗木「うーん……」

苗木「……………」

苗木「……あ！そうか！ふなっしーの占い師をCOするタイミングが不自然だったんだ！」

苗木（ふなっしーが本物の占い師なら賢狼を見つけた翌朝には誰よりも機先を制して占い結果を告発するのが自然な振る舞いのはずだ！）

苗木（しかもエレンクンの占い結果に便乗するかのようCOをしてきたということ……）

苗木（ふなっしーにとって巴サンは何としてでも排除したかった存在だったに違いない）

苗木（……でも巴サンは1日目にもふなっしーに村人判定を出している。……普通に考えたらふなっしーは巴サンの肩を持つべきじゃないのかな？）

苗木「……………」

うーんと頭を悩ませていると、やがて1つの仮説が誠の脳裏を過った。

苗木（——まさか、あえて仲間である巴サンを裏切った？）

苗木（だとするなら……うん、全ての辻褄が合う。そうか、真相が分かったぞ）
苗木「真占い師はエレンクンだ!!」

誠はやつと合点があったように手を叩く。

その拍子に腕時計の時間を見た誠は眼を剥いた。

苗木「よ、夜時間終了まであと1分!?!いけない昨日の霊能結果を見なきゃ!!」

誠は急いで個室の隅に備え付けられたパソコンのキーボードを叩き、バマミの正体を確認した。

『昨日処刑された　バマミ　は　人狼　でした』

※※※

く3日目・朝時間く

『朝時間になりました。アキラさんとセシリアさんが無惨な姿で発見されました。さらに聖なる力によりイカ娘さんが蘇生しました。大広間で話し合いをしてください』

イカ娘「復活でゲソ!!」

苗木「あれ、イカ娘サンが生き返ったってことは……」

八幡「村の人口が半分になったから、または村に残る人狼が1人になったか……だな」

天人の蘇生条件：

1. 「人外勝利前日」である。
2. 5 日目である。
3. 村の人口が半分以下になった。
4. 生存している人狼が一人になった。

ラオウ「だが……死体が2人だと……?」

十六夜「セシリアお嬢様が狼に噛まれて、鈴カステラみてえなりスがサイコキラーに花を売って自爆したってとこだろうな」

昨日吊ったバマミが本当に賢狼なのであれば、もはや占い師の存在価値が無くなる。とするならば大狼が占い師を襲撃するメリットは特に無いから、妥当な噛み先かな。と十六夜は1人納得する。

苗木「霊能CO! イカ娘さんが生き返ったから言うまでもないけど巴サンはやっぱり

賢狼だった。あとは大狼を探し当てるだけだね」

霊能COまとめ

苗木：サトシ村↓巴マミ狼

ふなっしー「賢狼が吊れたってことはもうふなっしーは用無しだな。洋梨だけに。言うまでもなく八幡君は村人だったなしよ」

エレン「へっ、用無しね。吊るなら吊れよ。そんな時は俺だけじゃなくこの梨も吊れよお前ら。ちなみに昨日は占ってねえ。もうお仕事は終わったしな」

占い師COまとめ

巴マミ：ふなっしー 村↓セシリア 村

エレン：ラオウ 村↓巴マミ 狼↓

ふなっしー：十六夜 村↓巴マミ 狼↓八幡 村

ラオウ「残りの生存者はこのラオウを入れて7人……」

八幡「残りの吊り回数は少なくとも3回。もう運ゲーでやっても大狼吊れんじやね？」

十六夜「おいおい寝言は寝て言えよヒツキー。運任せは思考の放棄と一緒にだぜ？お前も霊長類なら頭柄ってゲームを楽しもうや」

十六夜の言葉にピクリと八幡が眉をひそめる。

八幡「……ヒツキーだ？」

十六夜「なんだよ。パツと見た感じ引きこもりに見えたからヒツキーって愛称つけただけだ」

八幡「……せやな」

イカ娘「別室でゲームの様子は見てたゲソ！で、今日は私以外の誰を吊るんでゲソ？」
ふなつしー「イカ娘ちゃんは客観的に見て誰が怪しいと思ったなつしー？」

イカ娘「うーん。占い師はどちらが本物で偽物なのか私には正直分からないゲソ
……。でも1つ聞きたいのは」

ふなつしー「聞きたいのは？」

イカ娘「何もCOしていない十六夜と八幡とラオウは何者でゲソ？」

ラオウ「ぬ……」

十六夜「……」

八幡「……」

十六夜（……チツ、痛いところ衝かれたな。ここで無意識をCOして何かあるというわけでもないが、客観的に見れば潜伏した人外の無意識騙りともとれて十分怪しまれる。

……まあ、この場はCOするのが正解だろうが……）

十六夜がほんの何秒にも満たぬ時間黙り込んでいると、そんな十六夜を横目に八幡が

そつと手を挙げた。

八幡「うい、無意識COするわ。何も能力無かったから今まで黙ってた。以上」

十六夜（ツ!?!）

十六夜（やべ、俺としたことがしくつた。悩んでるうちに先に言われちまつたら元も子もねえだろ……!）

十六夜「……おいおい待ってくれ。無意識は俺だけ？これは人外が機先を制して無意識を騙ってるに過ぎない。騙されんなよお前ら」

八幡「はい、人外が本物に出てこられて慌てて対抗COして来ましたよ」

苗木「あれ、2人……ということは」

エレン「……また偽物かよ」

ラオウ「……」

十六夜（……さてここからどうするか、後からCOした俺の方が現時点では不利なはずだが……）

ラオウ「……違う。このラオウこそが真の無意識である」

十六夜「は？」

八幡「え」

ラオウ「言うべきか言わぬべきか悩んでいるうちにうぬらにそこの2人に先を越され

てしまった。すまん、このラオウどうもこの手の駆け引きは不得手なのだ」

八幡「ここで初心者アピールですか」

イカ娘「うー……誰が本物でゲソ？」

苗木「……ともかく、これで人外は皆何かしらの役職を騙っているということになっ
たね」

十六夜（さて考えろ俺。まず占い師に騙りが1人。んでヒツキーとラオウの奴が無意識騙りつつーことで現時点では3人の騙りがいる。つまり昨夜の俺推測が正しければ俺とエレン、八幡、ラオウの3人がそれぞれ鬼、大狼、サイコキラーだ。なんだ、超簡単な話だったじゃねえかよオイ。チエックメイトだな人外陣営。

やはり俺を追い詰められる者はヴィクトリカだけだったようだな……）

十六夜（これまでは狼に厄介な存在だと思わせないように大人しく黙っていたが……もう化けの皮脱いでもいいだろ）

十六夜「……そろそろ俺の見解を言って良いか？」

苗木「え？」

八幡「……」

十六夜「結論から言わせてもらおうが、本物の占い師はふなっしーだ」

苗木「?!」

エレン「アアツ!!」ガタツ

ふなっしー「当然なっしー!!」

十六夜「黙って聞け。まずロジックだが……」

苗木「それは違うよ十六夜くん！」ガタツ

十六夜「……あ？まだ何も言っただけでねえんだが」

苗木「違う、ボクも昨夜色々と考えてみたんだけど、どう考えても本物はエレンくんなんだ」

十六夜「……へえ？」

話を遮られて眉をひそめた十六夜だったが、誠の発言を受けて興味深そうに表情を戻す。

十六夜「OK。お前から言ってみろよ苗木。聞いてやる」

苗木「うん、まずは……」

続く

3日目②

く生存者く

逆廻 十六夜

エレン・イエーガー

ラオウ

比企谷 八幡

苗木 誠

ふなつしー

イカ娘

投票先

十六夜↓ふなつしー↓巴マミ

セシリア↓ゾーマ↓巴マミ

エレン↓巴マミ↓巴マミ

ラオウ↓ゾーマ↓巴マミ

ゾーマ↓八幡

八幡↓アキラ↓バマミ

苗木↓ふなっしー↓バマミ

アキラ↓ゾーマ↓バマミ

サトシ↓セシリア

イカ娘↓ゾーマ

バマミ↓エレン↓エレン

ふなっしー↓苗木↓バマミ

占い師CO

バマミ：ふなっしー村↓セシリア村

エレン：ラオウ村↓バマミ狼

ふなっしー：十六夜村↓バマミ狼↓八幡村

霊能師CO

苗木：サトシ村↓バマミ狼

花売りCO

アキラ

境界師CO

セシリア

く3日目・朝時間／話し合い中

十六夜「俺はイエーガーが怪しいと思ってる。オマエはふなっしーが怪しいと思ってる。見事に分かれたな。オマエの見解を聞こうじゃねえか苗木君？」

苗木「……えつと。じゃあボクの考えを言うけど……仮に十六夜クンの言う通りにふなっしーが真占い師だとしたら、真占い師にしては1つ不自然な振る舞いがあったんだ」

ふなっしー「え」

十六夜「不自然な振る舞い？」

苗木「うん」

十六夜「もしかして2日目に占い師COしたこと言ってるんじゃないやねえだろうな」

苗木「違うよ。それは2日目に賢狼を見つけたから2日目にCOしたといえど辻褃が合うから」

ラオウ「では何が怪しかったと言うのだ」

苗木「……タイミングだよ。占い師COするタイミングがあまりにもわざとらしくかつ

たんだ」

エレン「タイミングが？」

ふなっしー「ツ……………」

十六夜「……………」

苗木「もしふなっしーが本物で、1日目の夜に賢狼である巴サンを見つけたのなら、2日目は朝一番にそれを伝えるのが自然だよな？」

十六夜「……………そうか？」

苗木「そうだよ。ふなっしーは他の占い師達の結果を聞いてから、いやエレンクンの巴サンに対する狼判定を聞いてから重ねるようにCOしてきた」

十六夜「お前の言い分だとふなっしーは仲間である巴マミを裏切ったことになるな」

苗木「そういうことだね」

ラオウ「？……………どうということなのだ？狼が狼を裏切ったとでもいうのか」

八幡「……………」

苗木「騙り占い師である巴サンは1日目にとりあえず味方の狼……………つまり大狼であるふなっしーを占ったといつてふなっしーが村人であることを村人達にアピールしたんだ」

苗木「今考えるとこれは狼陣営の作戦だったのかもしれない。このゲームは自分が死

んでも最終的に味方の陣営が勝てればそれでいいわけだからね」

ラオウ「だからどういうことだ？このラオウが解せるように言うがいい」

苗木「…さつきも言ったようにさ、巴サンは味方の狼を占って白判定を下した。

でも考えてみて？セシリアサンとアキラクンの働きでその巴サンの人外がほぼ確定したよね？」

ラオウ「うぬ」

苗木「とするならボクらは次に、人外である巴サンが真つ先に占ったふなっしーにとりあえず疑いの目を向けない？」

八幡「あなるほどそういうことね」

苗木「仮にボクがふなっしーの立場だったら…疑いの目を向けられるくらいなら危険を冒してでも仲間を切り捨てて占い師をCOすると思う」

ふなっしー「出鱈目なっし」

イカ娘「でも辻褄はきちんと合ってないか？」

苗木「ボクはそう思ってふなっしーが怪しいと思ったんだけど…十六夜クンは違うんだよね？」

十六夜「…そうだな。お前とは別の視点で考えてた」

苗木「別の視点？」

十六夜「今度は俺の見解を言わせてもらおう」

エレン「てめえが見解を言う必要はねえ!! 苗木が言ったことが全てに真相に決まってるんだろツ!!」ガタツ

十六夜「うるせえ座れ。殴んぞ」

十六夜「仮にだ。仮にふなっしーの奴が大狼or鬼だとしよう。ふなっしーは1日目にその時点での占い候補である巴マミに村人判定を下されていた」

苗木「うん」

十六夜「ここから既に俺とお前とでの扨格が生じてるんだが…」

イカ娘「かんかくって何でゲソ?」

八幡「お互いの意見が相容れないことだよ」

十六夜「俺は一度誰かしらに村人判定を出された時点で占い師を騙る意味は無いと考える」

苗木「え?」

十六夜「普通そうだろう、たとえ自分を占った占い師が破綻したとして次の疑い先が自分に向けられたとしても、今の現状のように「俺は無意識だ」と声高に主張すれば済む話だからな」

十六夜「本来占い師騙りに出る奴は自分が吊られても全く問題の無い狼陣営側の人間

…つまりサイコキラーと単純に占われては困る賢狼の2種類だけだろ。だからこのゲームで登場した3人の占い師の内訳は本物、賢狼、サイコキラーだと容易に推測できる」

苗木「確かに」

十六夜「だろ」

苗木「でもふなっしーがサイコキラーという可能性は否めないよね？」

十六夜「はは、どうしてもふなっしーを人外扱いにしたいらしいがそれはねえよ」

苗木「…何で？」

十六夜「サイコキラーは特性上、主人である狼ですら殺めちまう恐れがあるリスクいな役職だ。おいイカ娘」

イカ娘「何でゲソ？」

十六夜「お前がサイコキラーだとしたらまずは何を念頭に置いてゲームに臨む？」

イカ娘「…えーと…とりあえずは自分の役職が狼に伝わるように立ち回るように心掛けるんじゃないイカ？」

十六夜「そうその通りだ。その為には狼が自分を襲撃しちまう前に何かしらのアクションを起こさなければいけない。そのなかで一番手っ取り早いのが占い師騙りだ」

苗木「…それがふなっしーがサイコキラーじゃないっていう証明になるの？」

十六夜「当然だろ。そもそも狂人系の役職はゲームの場を掻き乱すことが仕事なはずなのにただでさえ信用されにくい2日目には占い師COして誰にメリツトがある？」

苗木「う……」

十六夜「人狼でも鬼でもない。ましてやサイコキラーの線も薄い……。だとしたらふなつしーの正体は何であるのか？」

ラオウ「本物……か」

十六夜「そういうこと」

十六夜「つーわけで消去法で1日目に占い師COをしたエレンがサイコキラーだ」

エレン「テメエ黙ってりや好きなことぬかしやがって……」

十六夜「また、エレンとマミは1日目にお互いに投票している。票が割れる1日目で仲間に票を入れるのはリスクが高すぎるから普通はそれは避けて然るべき。つまりエレンと巴マミはお互いの正体を知らなかった。

よつてエレンがサイコキラー。以上だ」

ラオウ「……なるほど……。今まで静かにしていたが実は色々と考えていたようだな……」

十六夜「そういうわけだから今日のところは俺はエレンに投票する」

八幡「なあ、1ついいか逆廻？」

十六夜「何だ」

八幡「俺にはさつきからお前が大狼に見えて仕方がないんだが」

十六夜「ッ!？」

八幡「今の見事な推理を聞いて恐らくアンタを人外だと疑う奴はいなくなつたはずだ。だがアンタは頭が異様に切れる。

万が一お前が大狼で、今の流れのまま村を誘導しようと働きかけていたら……それはほど恐ろしいことはないよな？」

その瞬間、十六夜の脳内で全てのピースがカチャリと当てはまつた。

十六夜（……さつきの時点で俺は八幡とラオウが鬼、大狼だろうと踏んでいたが……）
十六夜（そうか、今はつきりしたぞ。勝利条件が狼の生存である鬼があえて大狼を指摘するなんてことはあり得ない……とするならば）

十六夜（——お前が大狼か、比企谷八幡……!!）

十六夜「ああ……。OK OK。今のお前の発言で俺もお前が本物の大狼だと確信した

ぜ」

八幡「さてさてどうでしょうかね」

ラオウ「……して、今日は誰に投票すればいいのだ？」

イカ娘「私も分からないでゲソ……。誠。どうするでゲソ？」

苗木「うーん……」

十六夜「実質もつとも発言権があるのは村人陣営なのがほぼ確定しているお前ら2人だ。お前らで決めろ。苗木。イカ娘」

苗木「……………」

苗木「……大狼が誰かは分からない。十六夜クンの推理の方が正しい気もしてきたし、とりあえずはエレンクンを処刑しよう」

エレン「何だと!？」

イカ娘「私も賛成でゲソ」

エレン「アアツ!!」

十六夜「決まりだな」

八幡「これが逆廻の作戦だとしたら終わりだがな」

『朝時間終了です。これから夕方の投票フェイズに入ります』

※※※

く3日目・夕方く

投票結果

十六夜↓エレン

エレン↓ふなつしー

ラオウ↓エレン

八幡↓エレン

苗木↓エレン

ふなつしー↓エレン

イカ娘↓エレン

エレン↓6票

ふなつしー↓1票

『投票により、本日の処刑はエレンさんに決まりました』

エレン「殺す！てめえら全員駆逐してやる！！地獄に落ちてもなアツ！！」

エレンの足元がばかりと開いた。

4 日目

く生存者く

逆廻 十六夜

ラオウ

比企谷 八幡

苗木 誠

ふなっしー

イカ娘

投票先

十六夜↓ふなっしー↓巴マミ↓エレン

セシリア↓ゾーマ↓巴マミ

エレン↓巴マミ↓巴マミ↓ふなっしー

ラオウ↓ゾーマ↓巴マミ↓エレン

ゾーマ↓八幡

八幡↓アキラ↓巴マミ↓エレン

苗木↓ふなっしー↓巴マミ↓エレン

アキラ↓ゾーマ↓巴マミ

サトシ↓セシリア

イカ娘↓ゾーマ↓エレン

巴マミ↓エレン↓エレン

ふなっしー↓苗木↓巴マミ↓エレン

占い師CO

巴マミ：ふなっしー村↓セシリア村

エレン：ラオウ村↓巴マミ狼

ふなっしー：十六夜村↓巴マミ狼↓八幡村

霊能師CO

苗木：サトシ村↓巴マミ狼

花売りCO

アキラ

境界師CO

セシリア

く3日目・夜／逆廻十六夜の個室く

勉強機の電気だけを付け、十六夜は床にあぐらを掻いて考え始める。

何かに集中する時は薄暗がりの方が頭が冴えるのだ。

十六夜（さっきのやり取りで完全に確定した。大狼は比企谷八幡に違いねえ）

十六夜（まさか大狼自らがこの俺に喧嘩を売ってくるとは思わなかったよ。だが考えがあまりにも浅はか過ぎたな）

十六夜（昨日俺に大狼の嫌疑を掛けてきたお前は必然的に今日の襲撃で俺を襲うことは出来ない。そして、俺がお前を大狼と断定出来たのは俺こそが本物の無意識であるからという事実には他ならない）

十六夜（ああチヨロいチヨロい。ヴィクトリカ以上の逸材にはやつぱりそうそう会えるもんじゃねえな）

※※※

く同刻／苗木誠の個室く

苗木「これで残る人外は3人いる無意識のうちの2人……」

苗木「逆廻クン、比企谷クン、ラオウ……誰が本物の無意識なんだ……?」

苗木「確かに逆廻クンの推理には信憑性があるように感じられたし、ボクの中から見

れば彼は村人側にしか見えなかった」

苗木「でも、比企谷クンの言うように逆廻クンが大狼だったとしたら……」

苗木「うゝん……やっぱり明日は逆廻クンを処刑した方がいい気がしてきたなあ。たとえ逆廻クンが本物の無意識であってもボク達にはまだ処刑できる回数が1回余っている。

そしたら最後は残った3人で一か八かの勝負に出るべきなんじゃないかと思う」
誠がアゴに手を当てて明日の行動を模索していると、突然パソコンに光が灯る。

苗木「……え？何も触っていないのに。あれ、何か書いてある……」

『今夜の襲撃先は貴方でした。明日以降ゲームへの参加は出来なくなります』

苗木「……え」

く4日目・朝時間く

『朝時間になりました。苗木さんが無惨な姿で発見されました。大広間で話し合いをしてください』

イカ娘「おはようでゲソ」

ラオウ「うぬ」

ふなっしー「処刑できる回数はおと2回なし！ 気を引き締めるなしよ！」

十六夜「苗木を噛んだか。まあ、妥当だろうな。俺を噛む訳にはいかないのだから」

八幡「ここまで来たら完全勝利を狙いたいもんだ。十六夜さえ吊れば俺の1人勝ちだぜ」

イカ娘「で、今日は誰を吊るのでゲソ？ 狼と鬼が票を合わせるわけないからもう個人投票でいいんじゃないイカ？」

ふなっしー「そうなしね。これ以上は推理のしようがないし、異論無いなしよ」

ラオウ「うぬ」

十六夜「確定村人のお前がそう言うなら従うが、俺は八幡に投票するぜ？」

八幡「同じだよ。俺も逆廻に入れさせてもらうが」

ふなっしー「む……じゃあふなっしーは誰に入れようかなしな……」

八幡「ちなみにこれは俺の独り言だから聞き流していいが」

ふなっしー「？」

八幡「俺目線で本物の無意識はラオウだ。で、逆廻十六夜が無意識騙りの大狼。そして十六夜が養護したふなっしーこそがサイコキラーに違いない」

ふなっしー「何でなっしー!!？」

十六夜「は？」

ラオウ「ぬ」

八幡「何だよ」

十六夜「お前自分の言ってること分かってんのか？」

八幡「当然だよ。もはやゲームも終盤。俺の考えはほとんど苗木と一致していたのさ」

十六夜「へえ？昨日と今日で何が違っていたのか是非ともご教授いただきたいもんだが」

八幡「違ってたに決まってるだろ。俺は苗木の意見に賛同していた。

だがお前は逆廻、お前はあいつを看破しちまっただろ。

俺自身苗木が言った事以上の意見は持ち合わせていなかった。だから昨日は村の意見に従った。

それだけの話ですよ」

十六夜「ハッ、えらくアバンギャルドな言い逃れじゃねえか。村は俺とお前どっちを信じるんだろうな」

八幡「アバンギャルドとかかっこつけてんじやねえよ、俺はお前を狼だと踏んでるんだぜ？お前が擁護したふなっしーに何らかのラインがあつたと疑うのは当然だろうが」

十六夜「そうかい。まあいいさ。今日明日中にお前を吊れば村人陣営の勝ちなんだ

からなあ」

八幡「お前本当に村人らしく振る舞うの巧いよな」

ラオウ「して……今日は誰を吊るのだ？」

十六夜「お前が決めるよロリイカ」

イカ娘「え？えー……そうでゲソね……。明日中に十六夜か八幡を吊ればこのゲーム

は終わるらしいでゲソから……今日は可能性潰しの為にふなっしーを吊るゲソ」

ふなっしー「ぶっしやあああああアツ!!？」

『朝時間終了です。これから夕方の投票フェイズに入ります』

※※※

く4日目・夕方く

投票結果

十六夜↓ふなっしー

ラオウ↓ふなっしー

八幡↓ふなっしー

ふなっしー↓八幡

イカ娘↓ふなっしー

ふなっしー↓4票

八幡↓1票

『投票により、本日の処刑はふなっしーさんに決まりました』

ふなっしー「無念なし！あんなに村に貢献したのにあんまりなっしー！」

足元がぱかりと開き、ふなっしーは梨汁を撒き散らしながら闇へと消えていった。

ふなっしー「なしゃしゃしゃしゃしゃしゃ！！！」

『3日目終了です。これから夜時間になります。各自自分の部屋にお戻りください』